議長		副議長		局長		補佐		係長		係員	

令和７年９月３日

多賀城市議会議長　殿

会派名　公明党多賀城市議団
代表者名　根　本　朝　栄　㊞

調査研究報告書

このことについて、下記のとおり実施したので、概要を報告します。

記

1　調査者名（参加者）

(1) 代表　根　本　朝　栄　㊞　(4)　㊞
(2)　阿　部　正　幸　㊞　(5)　㊞
(3)　齋　藤　裕　子　㊞　(6)　㊞

2　調査研究の概要

□調査期間：令和７年８月２７日（水）～令和７年８月２９日（金）
□調査目的：松山市の「産学官民が連携した全世代型防災教育事業」「ことばのちからプロジェクト」および高松市の「スマートシティたかまつ推進事業」を調査し、本市の今後の事業について提案を行うため
□調査手法：視察調査
□行　　程：添付行程表のとおり
□調査先及び調査事項

調査日時	調　査　先	調査事項及び現地視察の有無
8月28日（木） 10:00～11:00	愛媛県松山市	①産学官民が連携した全世代型防災教育事業 ②ことばのちからプロジェクト
8月29日（金） 10:00～11:00	香川県高松市	①スマートシティたかまつ推進事業

□調査資料：添付調査先作成資料のとおり

3　調査の概要
　別紙のとおり

4　所感（今後の市政に資する点）
　別紙のとおり

宮城県多賀城市議会　会派行政視察等　行程表

＜調査研究用＞

会派名「公明党多賀城市議団」

■日　　程：令和７年８月２７日（水）～　８月２９日（金）

日　程	行　程
<1 日目> 8月２７日（水）	多賀城市役所発（自家用車）９：００　→　仙台空港発 11：35（飛行機）→　伊丹空港着 12：55→　伊丹空港発 13:25（飛行機）→松山空港着 14:15　→　松山空港発 14:50（高速バス）→大街道着 15:12→　ホテル着 16：30
	■宿泊：チェックイン松山（愛媛県松山市三番町 2-7-3） ☎０５７０－０４－７０００
<2 日目> 8月２８日（木）	ホテル発９：３０（徒歩）→**松山市役所 10：00～11：00【行政視察】**　→　市役所前（伊予鉄城南線）→松山市駅前　→　昼食　→　松山駅発 13：２６（特急いしづち２０号）→　高松駅着 15：５６　→　（徒歩）→　ホテル 16:30 着
	■宿泊：高松センチュリーホテル（香川県高松市錦町１－４－１９） ☎０７８－８５１－０５５８
	■調査事項 松山市役所 ①　産学官民が連携した全世代型防災教育事業 ②　ことばのちからプロジェクト
<3 日目> 8月２９日（金）	ホテル発 9:30(徒歩)　→**高松市役所 10：00～11：00【行政視察】**　→　昼食　→ 高松駅発 12:40（快速マリンライナー３２号）　→　岡山駅着 13：32　→岡山駅発 13：58（のぞみ２８号）→　新神戸駅着　14：２９　→　新神戸駅発 15:00　（バス）→ 三宮着 15:15　→　三宮発 15:30（神戸アイランド線)→　神戸空港着 16:00 神戸空港発 17:25 発（飛行機）→仙台空港 18:45 着→（自家用車）→ 多賀城市役所１９：45 着
	■調査事項 ①スマートシティたかまつ推進事業

※調査期間は８月 28 日から８月２９日まで

3　調査の概要

「産官学民」オール松山で取り組む切れ目のない「全世代型防災教育」は、自助・共助・公助を一元化した組織づくりで、中でも自主防災組織は地域防災力の「核」となる組織づくりと人づくりの取り組みをしており、２０１６年に松山市防災組織ネットワーク会議が、防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞している。

地域ぐるみの防災支援事業は、平成27年度から継続事業で、防災活動・防災教育の指導者育成と地域や職域を超えたネットワークの構築として、防災士の養成に取り組んでいる。平成１７年から地域のために公的な役割を担うとの認識にたち、自主防災組織の推薦を条件に防災士の資格取得経費を全額補助し、令和７年７月現在で、松山市の防災士数は１１,２０５人で全国一となっている。

防災士養成事業では、自主防災組織、幼稚園、保育所、小・中学校などのほか、近年は多くの一般企業などで防災士の養成が進み、平成２６年度から愛媛大学と連携した防災士養成講座を制度化し、多数の防災士を養成している。

「ことばのちからプロジェクト」は、２１世紀という新たな１００年のスタートを迎えた２０００年に、２１世紀イベント協議会を立ち上げ、新しいまちづくりに向けて「ことばのちから」をキーワードとして事業の提案があり、「ことばのちから」をキーワードとしたイベント事業を展開することで、松山市から新しい風を興し、全国発信していくことが２１世紀イベントのコンセプトとなる。

「だから、ことば大募集」で、全国から寄せられた「ことぱ」は「街のことばミュージアム」として、多くの方の目に留まる場所へ掲出する。また、俳句甲子園（全国高等学校俳句選手権大会）、「ことば」の絵本作り、俳句ポストなどの取り組みで、「ことばを大切にかるまち松山」への機運も高まり、「ことばのちから実行委員会」と名称を変更して継続している。

「スマートシティたかまつ事業」は、人口減少、少子・超高齢社会の本格到来やデジタル技術の急速な進展など、社会情勢が大きく変化し、組織横断的に取り組みを推進することが求められ、今後の理念や目指すべき方向性を定めた「スマートシティたかまつ推進ビジョン（2025～2031）」を策定している。

4　所感

松山市では、防災士の資格取得経費を全額補助し、防災士の養成講座を行い、全世代型防災教育」の自助・共助・公助を一元化した組織づくりで重要で、本市においても防災士を活用する散り組を推進していきたい。また、ことばのちからプロジェクトは、本市でも取り組みをしていることから、大変参考になっ

た。今後、松山市との交流も含めて、「ことばのちからの大切さ」を市民にPRしていきたい。高松市では、市民向けのオンライン申請手続き集約したポータルサイト「たかまつ市役所」を令和５年３月から運用開始し、いつでもどこでもオンライン手続き出来る仕組みとなっている。また市民の通報ツール（道路の損傷など）や観光分野におけるデータ利活用など、本市でもICTを活用した取り組みの推進に向けて取り組んでいきたい。

“産官学民”オール松山で取り組む!!
切れ目のない「全世代型防災教育」

令和7年8月28日(水)

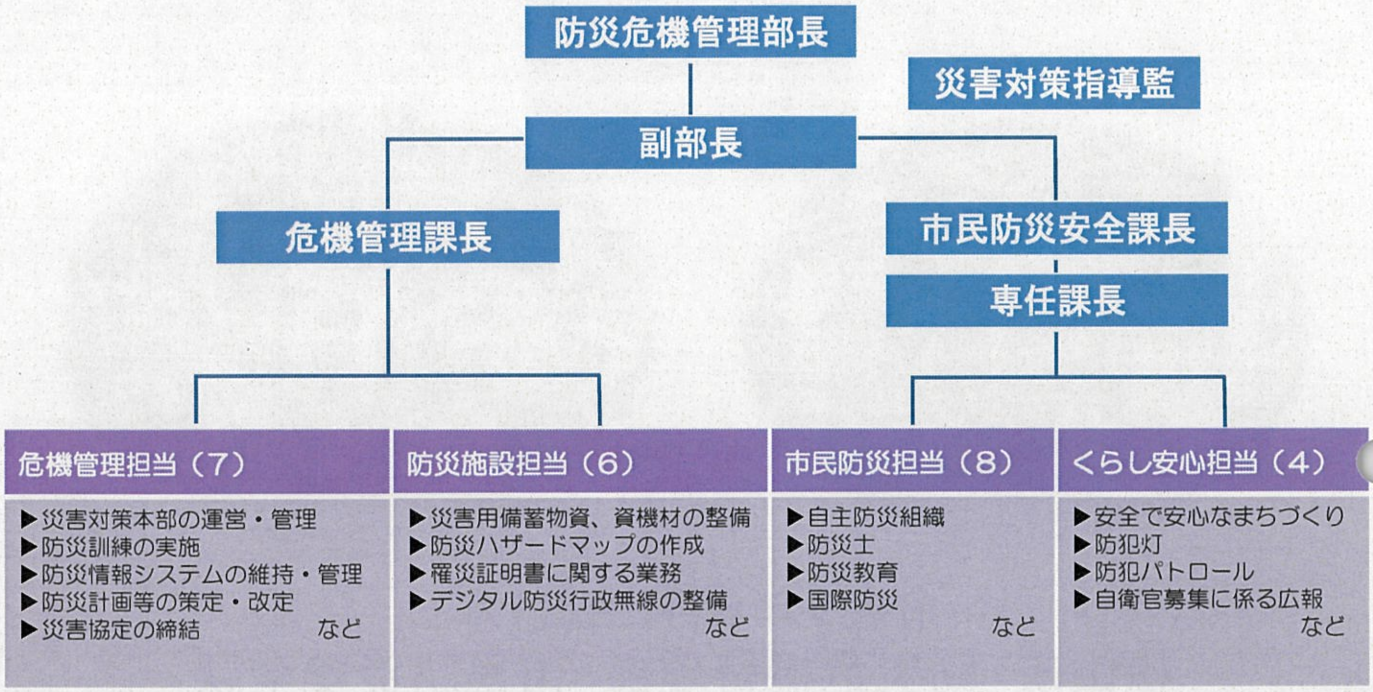
松山市　防災危機管理部　市民防災安全課

松山市の
防災・危機管理について

自助・共助・公助を一元化した組織づくり

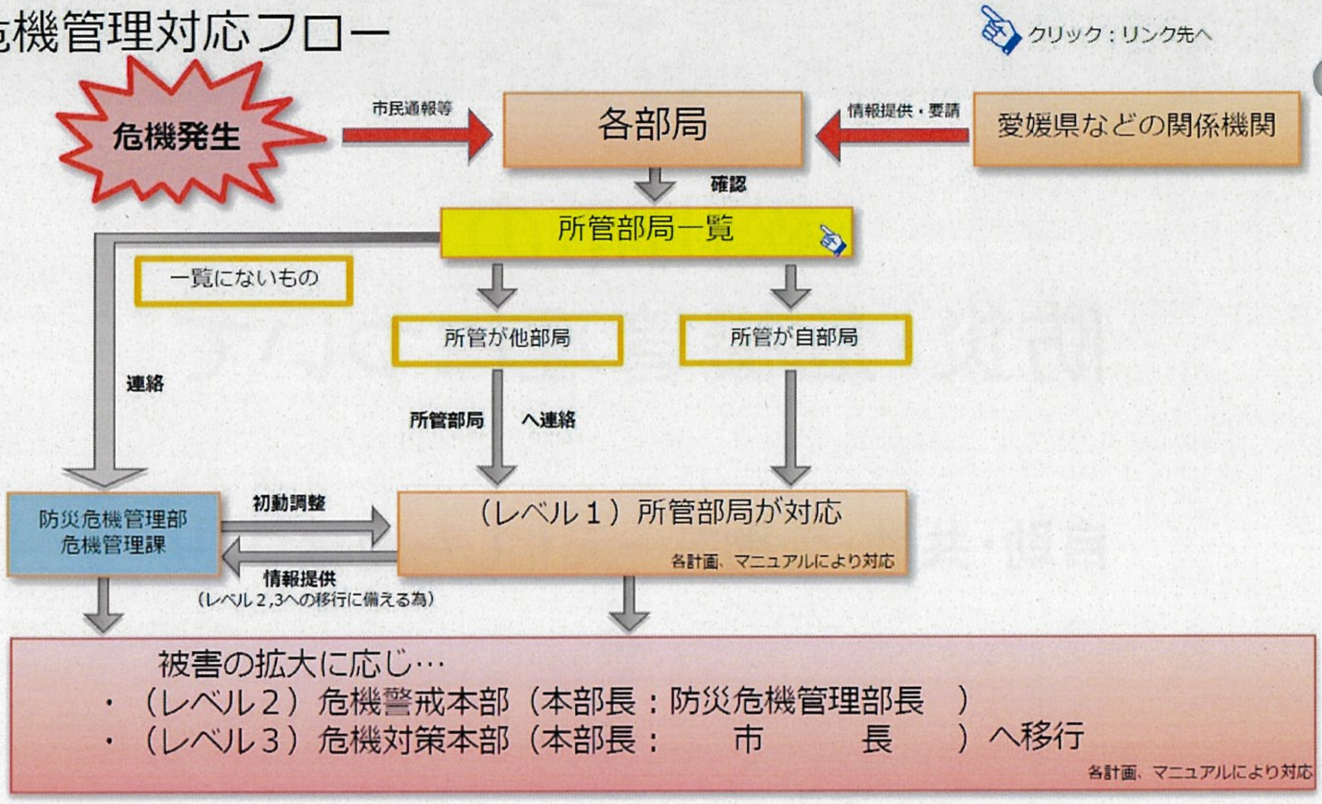
松山市 防災危機管理部

自然災害のほか、危機事象に迅速・的確に対応し、
市民の生命身体及び財産を守るための対策を総合的に推進する。



松山市の危機管理対応

危機管理対応フロー



松山市危機管理指針

災害

- **松山市地域防災計画**
  - 松山市避難行動要支援者支援対策マニュアル
  - 災害時の職員参集計画などはこちら
  - 松山市災害廃棄物処理計画
  - 災害時処理困難物対応マニュアル

武力攻撃事態等

- **松山市国民保護計画**
  - 国民保護避難マニュアル
  - 武力攻撃事態時の職員参集計画などはこちら

その他の危機事象

- **松山市危機事象対処計画**
  - 松山市新型インフルエンザ等対策行動計画及び対策マニュアル
  - 松山市鳥インフルエンザ対策マニュアル
  - 毒物若しくは劇物流出等事故対応マニュアル
  - 松山市異臭等発生時危機管理対策マニュアル
  - 松山市大規模食中毒対応マニュアル
  - 松山市大量排出油等対応マニュアル
  - 松山市渇水対応マニュアル
  - 松山市子ども危機管理マニュアル
  - 松山市水質事故時危機管理対策マニュアル
  - 松山市不発弾処理マニュアル
  - 松山市停電マニュアル
  - 下水道事故対応マニュアル
  - 松山市水道施設事故マニュアル
  - 松山市口蹄疫対策マニュアル
  - 松山市人工衛星等落下予測事象対応マニュアル
  - 松山市鳥獣等による危害対応マニュアル
  - 松山市豚熱及びアフリカ豚熱対策マニュアル

※【所管部局は…】
・危機事象の対応により適宜マニュアルを修正
・新たな危機事象について対応マニュアルを新規策定

その他のマニュアル等

- 松山市ICT部門業務継続計画《庁内版》
- 松山市消防集団救急救護活動要領
- 松山空港緊急計画
- 天然痘対策行動計画
- 渇水時消防特別対策本部設置要綱
- テロ対策マニュアル（公営企業局）

災害協定一覧はこちら

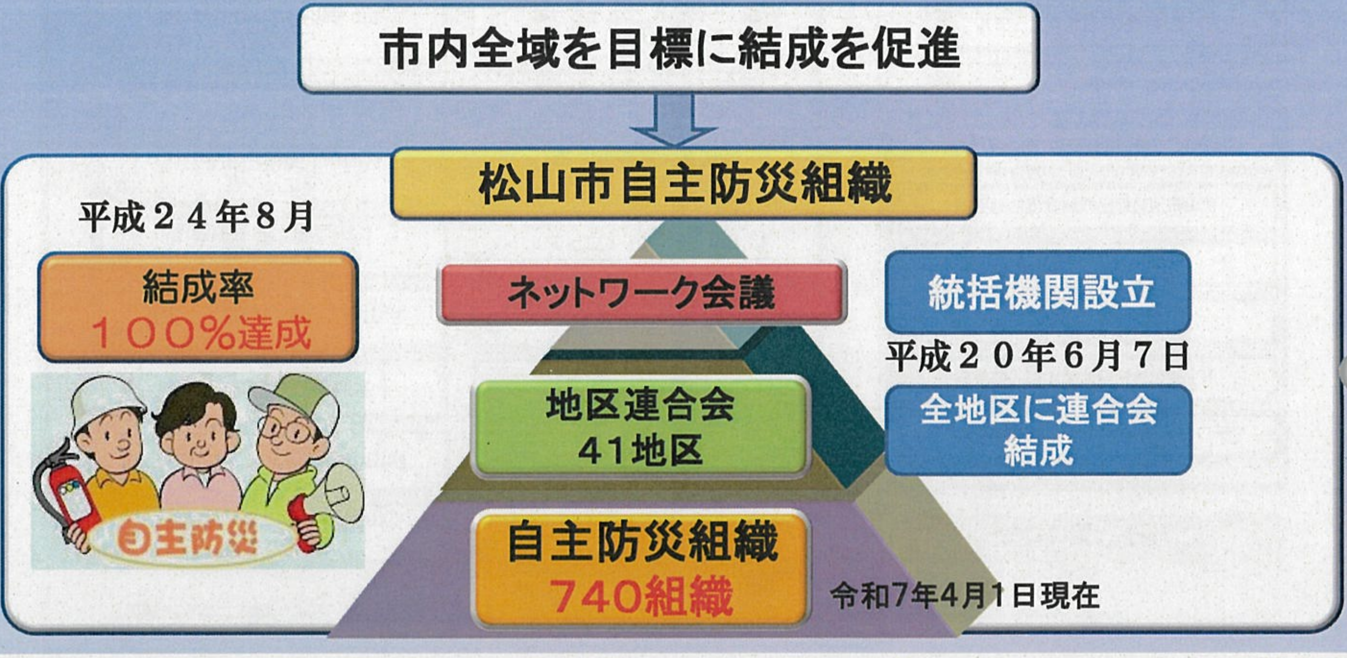
松山市の
自主防災組織について

地域防災力の“核”となる、組織づくりと人づくり

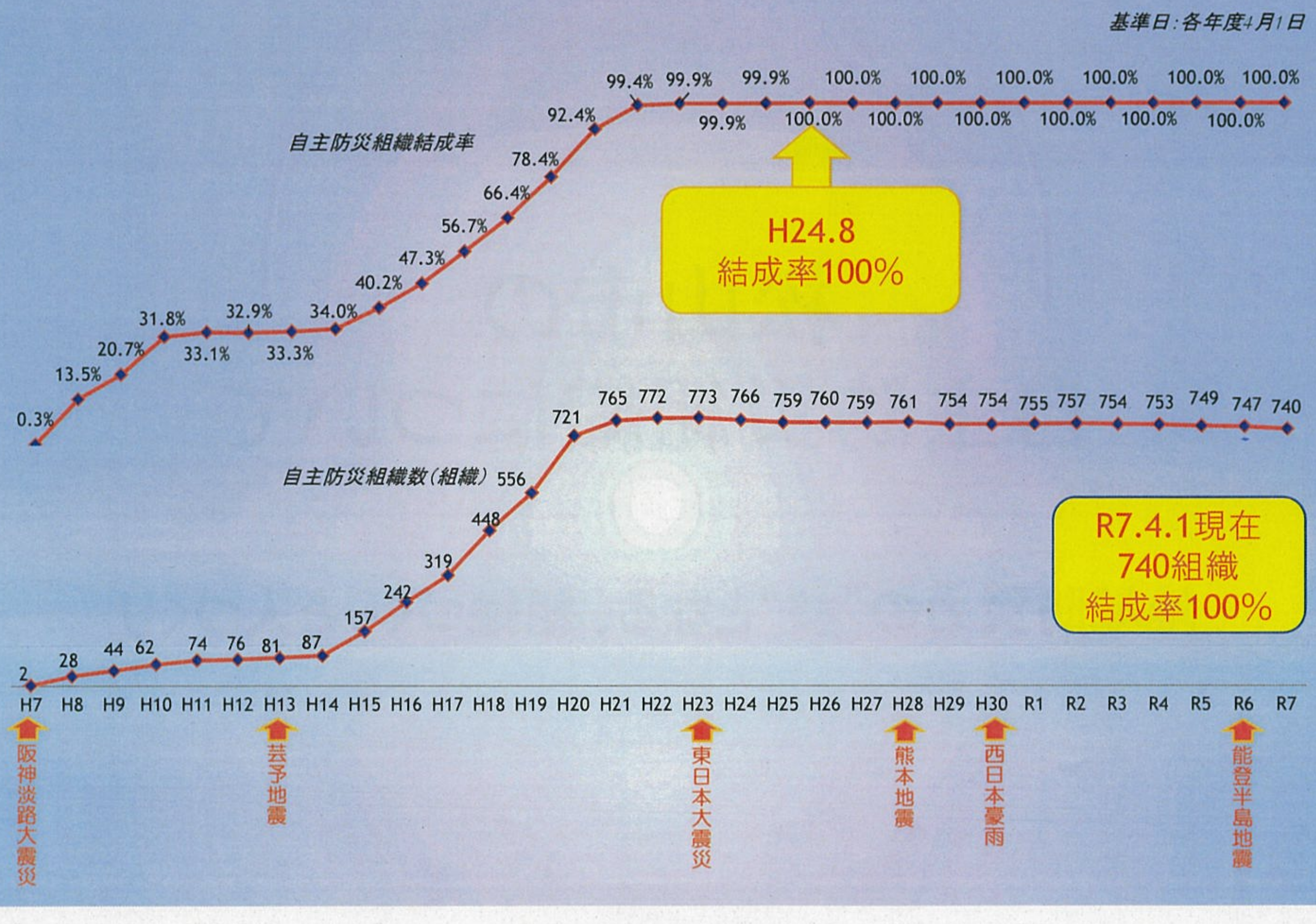
自主防災組織の結成促進

平成　7年 1月17日　阪神淡路大震災
平成23年 3月11日　東日本大震災

大災害の教訓：『自助』『共助』の重要性

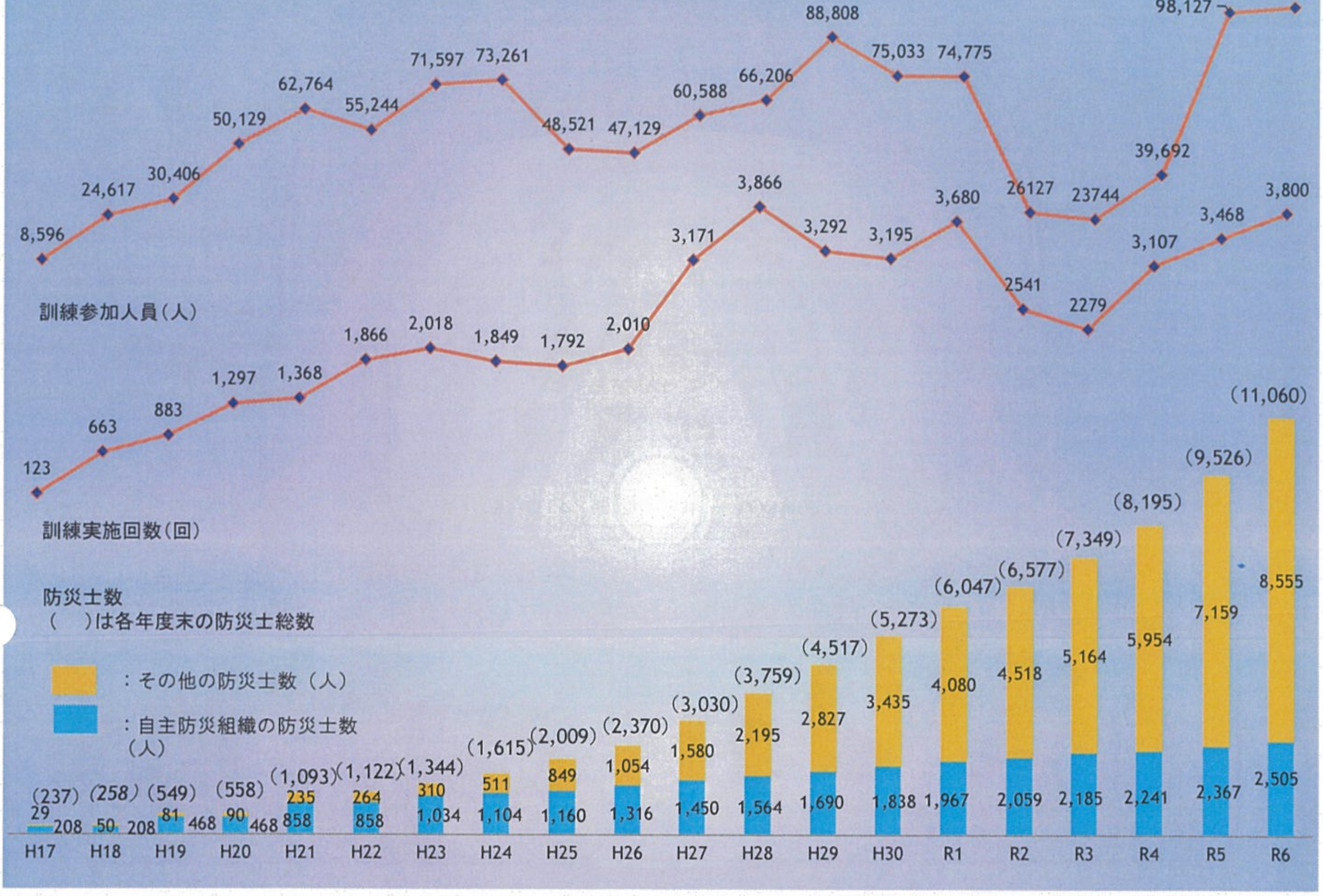


自主防災組織結成の推移



防災士数・訓練状況の推移

基準日：各年3月31日



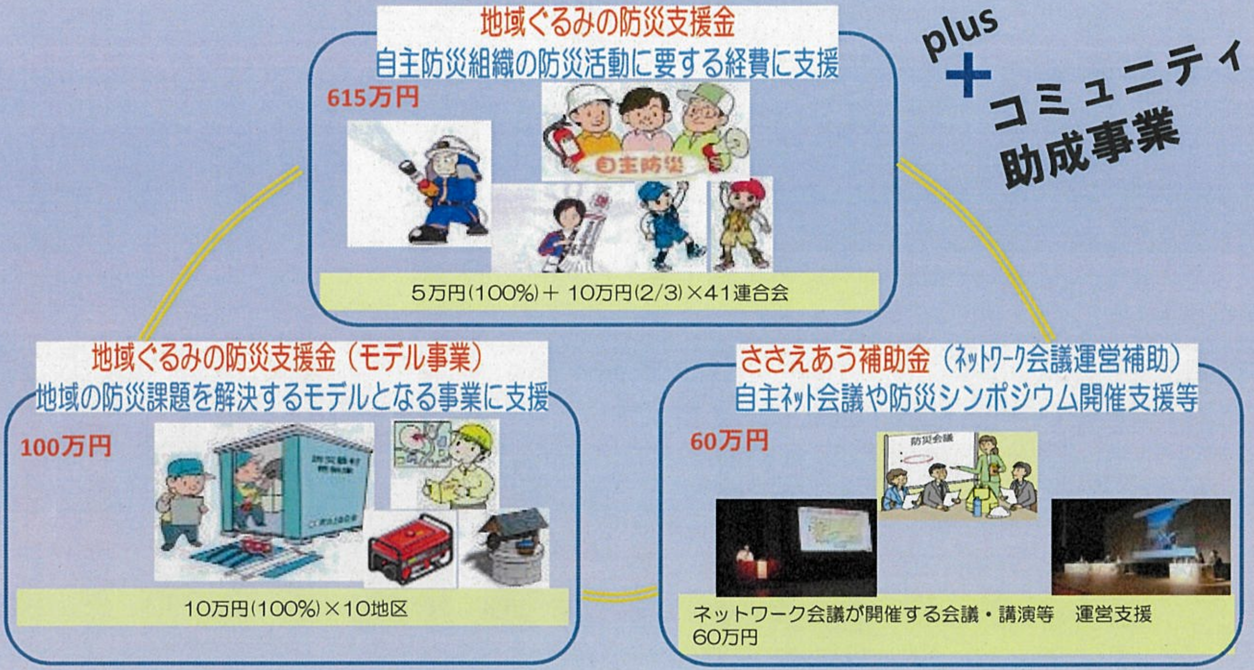
防災功労者内閣総理大臣表彰

2016年（平成28年）9月

松山市自主防災組織ネットワーク会議

地域ぐるみの防災支援事業　H27年度～継続

自主防災組織による防災訓練や研修会の開催や資機材整備等の活動を支援し、地域防災力の強化につなげます。



防災士の養成について

防災活動・防災教育の指導者育成と、
地域や職域を超えたネットワークの構築

地域をつなぐ防災士（松山市の防災士養成）

全国一

（令和7年7月末現在）

都市名	防災士数
松山市（中核市）	11，205
仙台市（政令市）	4，863
大分市（中核市）	4，818
横浜市（政令市）	4，344
名古屋市（政令市）	4，326

全国初

防 災 士（H17から）
地域のために公的な役割を担うとの認識に立ち、自主防災組織の推薦を条件に資格取得に必要な経費を全額補助

H17～
- 自主防災組織
- 自主防災組織の推薦
- 2，506名

H24～
- 市立小・中学校
- 児童・生徒の安全を確保
- 市立小・中学校500名

H25～
- 市立幼・保育園
- 市立幼・保育園137名

- 民間取得者
- 事業所 大学生など
- 7，389名

- H26～ 郵便局 54名
- H26～ 児童クラブ 158名
- H26～ 福祉避難所 210名
- H29～ 災害協定事業所 171名
- R1～ 高校生 80名

平成17年度：123回 8,569人 → 令和6年度：3,800回 100,184人

年間の防災訓練・研修会の回数、参加者が飛躍的に増加！

実施回数 30.9倍
参加人数 11.7倍

松山の人とまちを守る！防災士養成事業

松山市では、地域及び企業の防災リーダー育成のため、平成17年度から「防災士」の養成を行っています。令和7年1月末現在、本市には10,819名の防災士が誕生し、自主防災組織や幼稚園・保育所、小・中学校などのほか、近年は多くの一般企業などで防災士の養成が進んでいます。（全国一の防災士数）

H26年度から愛媛大学と連携した防災士養成講座を制度化
「愛媛大学公開講座」で一定多数の防災士を養成

日程	第1回 休日コース	令和7年8月2日（土）・8月3日（日）の2日間
	第2回 平日コース	令和7年8月4日（月）・5日（火）の2日間
	第3回 平日コース	令和7年9月25日（木）・26日（金）の2日間
	第4回 休日コース	令和7年9月27日（土）・28日（日）の2日間
場所	愛媛大学城北キャンパス ほか	
費用	受講料 10,000円 教本代 4,000円 受験料 3,000円 登録料 5,000円	

- 公費 100人：自主防災組織／小・中学校／その他市関係機関
- 一般 290人：民間企業等／個人

※令和3年度までは公費 200人
※令和6年度までは公費 150人

団体名	R2年実績	R3年実績	R4年実績	R5年実績	R6年実績
自主防災組織	96	90	51	52	64
市立小・中学校 教員	25	26	32	28	26
保育園・幼稚園	12	10	10	10	10
児童クラブ・児童館	16	16	8	5	17
福祉避難所	13	13	6	8	15
郵便局	2	3	2	3	3
災害協定事業所	23	20	21	20	16
ジュニア防災リーダー（高校生）	11	4	37	8	0
合計	198	182	167	134	151

カリキュラム

日程	時限	時間	講義内容	講師
1日目	－	8:30～9:00	受付	
	－	9:00～9:15	オリエンテーション	
	1	9:15～10:15	【補講1】 近年の主な自然災害	愛媛大学 名誉教授　矢田部　龍一
	2	10:25～11:25	【第17講】地域の自主防災活動 ～自主防災活動と地区防災計画～	松山市 市民防災安全課 主任　中山　洋平
			昼　食（防災ビデオ上映）	
	3	12:25～13:25	【第1講】 地震のしくみと被害～地震・津波による災害～	愛媛大学 名誉教授　高橋　治郎
	4	13:35～14:35	【第3講】土砂災害	愛媛大学 防災情報研究センター 教授 Bhandary Netra Prakash
	5	14:45～15:45	【第16講】風水害・土砂災害等への備え	愛媛大学 防災情報研究センター 教授　森脇　亮
	6	15:55～16:55	【第15講】地震・津波への備え	愛媛大学 防災情報研究センター 副センター長　二神　透
		16:55～17:05	事務連絡	

日程	時限	時間	講義内容	講師
2日目	－	8:30～9:00	受付	
	－	9:00～9:15	オリエンテーション	
	1	9:15～10:15	【第7講】災害関連情報と予報・警報	松山地方気象台
	2	10:25～11:25	【第18講】避難所の設置と運営協力	松山市 危機管理課 保健師　山脇　沢奈
			昼　食（防災ビデオ上映）	
	3	12:25～13:25	【第21講】防災士の役割～防災士に期待される活動～	松山市 市民防災安全課 主任　奥宮　啓介
	4	13:35～14:35	【補講4】緊急救助技術を身につける ～防災士が行う各種訓練～	愛媛大学防災情報研究センター 近藤　敬宏
	5	14:45～15:45	【第6講】地域防災計画と防災マップ ～被害想定・ハザードマップ～	松山市 市民防災安全課 主幹　竹場　登
	6	15:55～16:55	【第9講】松山市の防災体制の概要について ～行政の災害対策と危機管理～	松山市 危機管理課 主幹　二宮　達司
		17:15～18:15	防災士資格取得試験	日本防災士機構

大学生防災士について

一人ひとりが知識と行動力を持てる“ひとづくり”

実践的学生防災リーダー育成プログラム

新学部「社会共創学部」開設！！

4年間の座学・実践をとおして防災の知識と技術を持った「若い力」を育成。

松山市は地域や企業と関わる活動の場を提供し、官学連携で成長を支える。

主に1年次

短期集中講義　環境防災学（2単位）
全学部・他大学：座学 防災士教本
講習：普通救命講習（応急手当の演習）
救助技術講習

防災士資格取得試験

防災士（日本防災士機構）の資格取得

防災リーダークラブ　入会

2、3、4年次

リーダークラブの活動
（松山市が委託）
・地域住民が作成する地区防災計画の支援
・小中学校の防災キャンプや防災教育の開催
・市民を対象とした土のう作り教室の開催など

防災マネジメント学（2単位）：学部専門科目
座学：各種災害に対する危機管理について

防災情報社会学（2単位）：学部専門科目
災害時情報伝達システム，災害情報の仕組み・取得方法

地域防災実践学（2単位）：学部専門科目
県内自治体における防災計画の評価・座学・現地見学

★卒業前に　民間・自治体へのインターンシップ　｜　地元企業・自治体等への就職支援

地域創生!!

官学民の連携で成長を支えて育てた、防災のスキルを持った大学生が地元・松山に就職していくことで、地域（防災）の活性化と若返りが図られ、就職後何十年と本市の地域防災の牽引役として活躍していける仕組みづくりに取り組みます。

若い世代の地域での活躍の場を創出し、地域の宝が地域で花開く、防災ひとづくりによる地域創生が進められます。

地域で活躍する大学生防災士の養成

大学生の防災士養成講座「環境防災学」

若い防災リーダーを輩出するため、平成27年度から愛媛大学と松山市が連携し、大学の単位と「防災士」の資格を取得することができる「環境防災学」を開講しています。

松山市内の4大学、2短期大学から、毎年200名を超える大学生が受講しており、大学生防災士が多数誕生しています。

若い世代の地域での活躍の場を創出し、地域の宝が、地元で花開く、防災ひとづくりによる地域創生が進んでいます。

「防災士に期待される活動」についての講義の様子

実技講義（ロープワーク）の様子

実技講義（救出技術）の様子

活躍する若き防災リーダー（防災リーダークラブ）

大学生の防災士による「防災リーダークラブ」の結成

「防災リーダークラブ」は、防災士の資格を取得している、松山市内の様々な大学の学生によって結成されたNPO団体です。卒業した後、地元・松山で就職した学生は、防災に継続して関わることで、地域防災活動の活性化と若返りに貢献しています。日々、地域防災の若きリーダーとして積極的に活動しています。

水防工法訓練への参加

小学校での防災教育の実施

地区の防災活動の運営支援

Youtubeでの動画投稿

防災リーダークラブの活躍！

「防災リーダークラブ」は、松山市と連携して、防災訓練や地区の防災活動への参加、小学校や中学校での防災教育など幅広い場面で活躍しています。

また、Youtubeにて活動紹介や防災クイズ、地域の災害碑を紹介する動画などを作成。積極的に広報活動にも取り組んでいます。

防災リーダークラブの活動

地区会議への参加

防災シンポジウム開催支援

防災リーダークラブ研修会の実施

水防工法訓練への参加

他団体との連携について

地域防災力の集合体
“地域ぐるみの松山方式防災”

地域ぐるみの松山方式防災

・平成25年12月「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」制定
・平成26年4月　「災害対策基本法」の改正
　H27年4月消防局に地域防災課を設置。地域防災関係団体及び企業が相互に連携し、総合的な地域防災力の充実・強化を目指すため「松山市地域防災協議会」を設置。（平成28年2月22日に愛媛大学防災情報研究センター・防災リーダークラブ加入）

消防団

自主防災組織

松山市地域防災協議会

- 消防団 — 41分団
- 自主防災組織 — 41地区 747組織
- 女性防火クラブ — 39地区
- 防火連絡協議会 — 646事業所
- 愛媛大学防災情報研究センター — 防災リーダークラブ
- 松山市 — 防災危機管理部市民防災安全課・消防局

女性防火クラブ

防火連絡協議会

　地域の防災関係団体が相互につながりを強化することで、災害に備え、地域でささえ合う体制づくりを進めます。こうした産官学民の団体を一元化して連携を目的とする協議会の設置と、相互の情報交換や一体となった活動は全国的にも初めての事例となります。

愛媛大学防災リーダークラブ

民間企業等の地域防災への参画

防災士を育成した企業への表示証（プレート）配布

令和7年3月現在、市内452の民間企業が
防災士を育成し地域防災に協力

全世代型防災教育へ

産官学民が連携した全世代型防災教育による

「災害に強い人づくり、まちづくり」

平成30年7月豪雨　松山市高浜地区

平成30年7月豪雨　松山市高浜地区

平成30年7月豪雨　松山市高浜地区

平成30年7月豪雨 高浜地区は自分たちで地域を守った

【災害発生状況等】（※報道、自治体・地域の聞き取り等による）
松山市高浜地区では、地区内35箇所で土石流やがけ崩れが発生し、**人家11戸が全半壊の被害となったが、避難の際にけがをした人を除いては全員無事であった。**

【災害の経緯】
7月6日　06：20　土砂災害警戒情報発表（松山市全域）
7月6日　午後　自主防災組織が見まわり（土砂崩れ等確認）
18時頃～　異常に気づき1軒1軒避難の呼びかけ
21：00　避難勧告発令（高浜3，4丁目）※以降拡大
22時頃から翌朝にかけて35箇所で土石流やがけ崩れが発生

≪ポイント≫
・この地区では、3年前に土砂災害警戒区域が公表されたことを受けて、住民たちにより一時避難場所を見直すなど、事前の備えがあった。定期的に意識啓発や情報交換をおこなっていた。
・**自主防災組織などにより自主的に見まわりが実施され、危険を確認した後は、行政の指示を待たずに避難行動が開始された。その結果、地区内35箇所での土砂崩れ等が発生したが全員無事であった。**
・地域で依頼し、小型無人機「ドローン」を用いた被害調査活動がおこなわれ、今後の検討に取り組んでいる。

高浜地区自主防災連合会【2019年 6月, 9月】
★土砂災害防止功労者国土交通大臣表彰
★防災功労者内閣総理大臣表彰

【2018年７月豪雨】
- 地区内３５カ所で土石流やがけ崩れ
- **人家１１戸が全半壊**
- **自主的に1軒1軒声掛けし、早期避難**
- **大切な命を地域の力で守った**

■毎年、学校・消防・警察と連携し、1,000名規模で防災訓練

地区内で顔の見える関係

地域住民の呼びかけに反応

地域の力で命を守った

愛媛新聞 ONLINE 2019年 5月16日(木)

平成30年7月豪雨
松山市中島地区

松山沖・怒和島

愛媛県内豪雨被害　捜し続けた父　悲涙　かき分けた泥に妻子３人

2018年7月8日（日）（愛媛新聞）

「一秒でも早く見つかれ」―。活発化した梅雨前線の影響で西日本各地で記録的な大雨となった７日、愛媛県内でも南予を中心に多くの土砂崩れや浸水などが発生、多くの命が失われ、交通網は寸断された。自然の猛威に襲われた現場では住民らが一刻も早い救出を願って消防や警察、自衛隊員らの作業を見守り、避難所では少しでも不安を和らげようと集まった人たちが肩を寄せ合った。

土石流で倒壊した家屋で行方不明者を捜す松山市消防局員ら＝７日午前８時３５分ごろ、同市上怒和

暗闇の中、土砂に埋まった家屋の周りで、父は懐中電灯を持って妻や小学生の娘２人を捜していた。７日未明、松山市沖の離島・怒和島で発生し、家屋をのみ込んだ土石流。明るく仲がいいと島民の間で評判の母子３人は倒壊家屋で見つかったが、息をしていなかった。救助に当たった自衛隊員や消防隊員らが泥で茶色に染まった肩を落とす中、遺族の悲痛な叫び声が響いた。

地元の消防団員によると、６日午後７時ごろから、被害家屋のある上怒和地区では土砂崩れや浸水が相次いでいた。

「ドン」というごう音が地区内に響いたのは７日未明。大量の土砂が木々を巻き込み、

平成30年7月豪雨
松山市中島地区

産官学民が連携した「全世代型防災教育」のはじまり

愛媛大学×松山市で防災リーダーの育成を開始

- 愛媛大学公開講座「防災士養成講座」（H26～）
- 単位と防災士資格が同時に取得できる大学講座「環境防災学」（H27～）

しかし…

平成30年7月豪雨で大きな犠牲

小学生姉妹と母親の尊い命が失われる
⇔防災リーダーの活躍で逃げ遅れなかった地域も

平成30年7月豪雨
松山市の被害

- 平成30年10月 愛媛大学防災情報研究センターに職員を派遣し、住民避難を研究
- 平成31年 3月 愛媛大学・東京大学と協定締結
  両大学の高度な知見をいかした防災教育や人材育成

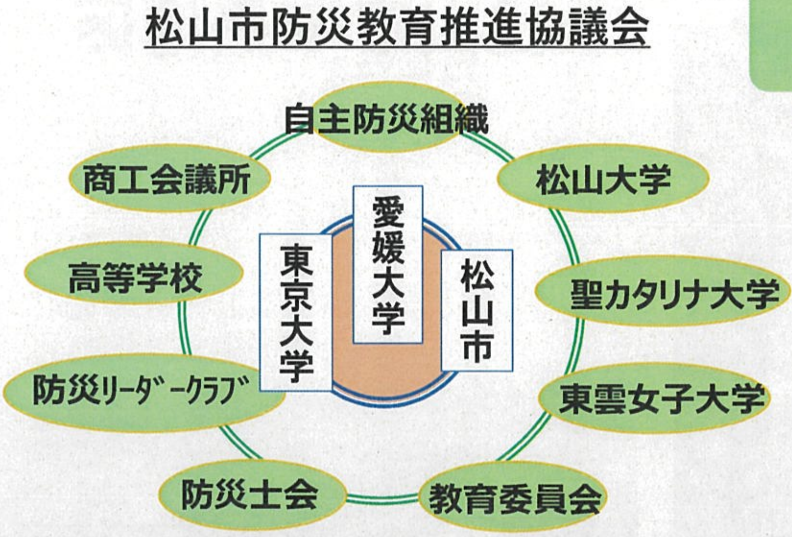
全ての世代・職域に防災教育を実践し、

災害で1人の犠牲も出さない人づくり・まちづくりを！

⇒産官学民が参画する松山市防災教育推進協議会の設立

令和元年５月

防災教育推進協議会と防災リーダー育成センターの設立



どんな対象に
どんな防災教育が必要か

どんな手法で
防災教育をすればいいか

①発達段階や職域に応じたプログラムの開発・実践
②防災教育を指導する防災リーダーの育成

①②を同時に進めていくことが重要！

愛媛大学内に 令和元年10月
松山防災リーダー
育成センターを設立

具体的な防災教育
プログラムを開発・展開

■ 松山防災リーダー育成センターとは

本センターは、平成30年7月豪雨で甚大な被害が発生したことを機に設立されました。愛媛大学と松山市が連携して松山市民を対象に防災教育の推進に取り組んでいます。

防災士の養成とフォローアッププログラムの実施、年間で延べ10万人を超える参加者がある自主防災活動のサポート、学校防災エデュケーターを通じた防災教育の展開など、全国的にも類を見ない防災教育活動を企画・立案するとともに各種活動の指導を行っています。

第11回ジャパン・レジリエンス・アワード 内閣総理大臣賞 受賞

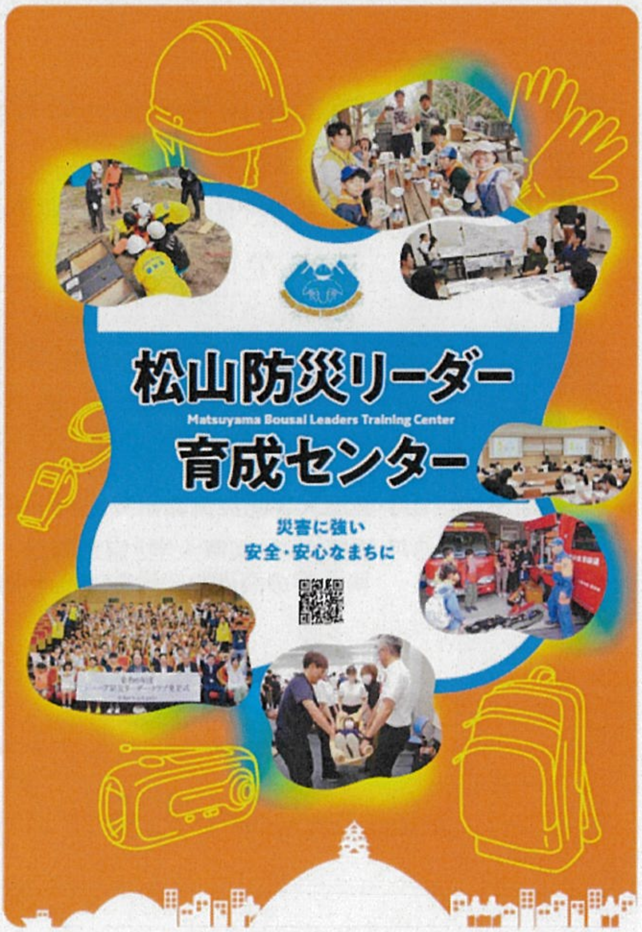
本センターが松山市と取り組んでいる「全国最多の防災士を核とした安全安心なまちづくり」が、「第11回ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)」の内閣総理大臣賞を受賞しました。

1万人の防災士養成とフォローアッププログラム、年間延べ10万人を対象とした地域防災教育の展開、小学5年生から高校生を対象としたジュニア防災リーダークラブを通しての継続教育、市立中学1年生を対象としたマイ・タイムライン作成授業の実施など、極めて意欲的で継続的な防災活動が高く評価されての受賞となりました。

松山防災リーダー育成センターに関する受賞歴

- 令和7年4月22日
  第11回ジャパン・レジリエンス・アワード 内閣総理大臣賞
  松山市、松山防災リーダー育成センター
- 令和6年12月21日
  令和6年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」 はばタン賞(中学生部門)
  ジュニア防災リーダークラブ
- 令和4年12月8日
  令和4年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」 優秀賞(中学生部門)
  ジュニア防災リーダークラブ
- 令和4年6月22日
  令和4年度優良青少年団体及び青少年知事表彰
  防災リーダークラブ
- 令和4年4月27日
  第8回ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞) 準グランプリ　二階俊博国土強靱化提唱者賞
  松山市、松山市防災教育推進協議会、松山防災リーダー育成センター
- 令和4年2月25日
  第26回防災まちづくり大賞　消防庁長官賞
  松山市防災教育推進協議会、松山防災リーダー育成センター
- 令和3年12月10日
  令和3年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」 URレジリエンス賞(小学生部門)
  ジュニア防災リーダークラブ
  ぼうさい大賞(大学生部門)
  防災リーダークラブ

山防災リーダー育成センター　〒790-8577 愛媛県松山市文京町3 愛媛大学防災情報研究センター内
TEL:090-4910-9465　E-mail:info@matsuyama-bltc.com



10 カテゴリー

小学校から高齢者まで全ての世代に防災リーダーを育成!!

全世代型防災教育

小学生から高齢者に至るまでの全世代に対して各年代にマッチした防災教育プログラムを構築しています。
これらの防災教育の指導は各方面の専門家などが務めます。そして、防災教育に関わる研修や実践活動を通して防災リーダーが育成される仕組みとなっており、
極めて組織的で継続的な取り組みです。

小学生　中学生　高校生

ジュニア防災リーダークラブ

家庭防災、学校防災、そして地域防災の先頭に立つ人材育成を目的として、令和2年度に結成し、小学校5年生から高校3年生までの児童・生徒が参加しています。年間を通して実施される、様々な防災プログラムに参加することで、次世代を担う防災リーダーに必要な、思考力、実践力、責任感、指導力、そしてコミュニケーション力などを身に付けています。

- まるごと防災たんけん隊!!
  防災に関わる行政機関や企業などと協力して、各団体の防災への取り組みを、職場見学や体験学習を通じて学んでいます。普段は見ることのない気象台や、スーパーの裏側など、様々な団体の取り組みを実践的に学ぶことで、子どもたちの主体性を育みます。

土のう作り体験

- 発足式
- 避難シミュレーションゲーム
- 防災まち歩き
- 防災デイキャンプ
- 防災見学ツアー
- ジュニア防災リーダー認定チャレンジ
  1年間活動に参加し、防災に関して研究したことなどをまとめて発表し、防災に関する知識の力試しをします。成績優秀者には「きらめき松山市民賞」などの表彰があります。

ジュニア防災リーダー認定チャレンジ受賞者（きらめき松山市民賞）

高校生のみ～

- 黒瀬町防災学習

- 防災士資格の公費取得

防災士資格取得者へキャップとベストの贈与

大学生

- 防災リーダークラブ
  大学生防災士で組織するNPO団体で、地域の防災訓練や研修会への参加、地区防災計画の策定支援、小学校や中学校での防災教育など、幅広く活動しています。

- 環境防災学
  平成28年度から松山市と愛媛大学が連携して、防災士資格と単位を取得できる短期集中講義「環境防災学」を開講。市内の大学から毎年150名を超える大学生防災士が誕生しています。

防災で未来をつくるまちづくり

まつやま1万人の防災士

防災士

- 防災士フォローアッププログラム
- 防災シンポジウム

防災士フォローアッププログラム（上級救命講習）

企業

- 防災協力事業所・災害協定事業所合同研修
- 簡易版BCPの作成と活用
- 防災協力事業所
- 防災士養成（災害協定事業所）

防災協力事業所・災害協定事業所合同研修

福祉

- 福祉避難所訓練
- 施設版タイムライン
- 防災士養成（福祉避難所）

福祉避難所訓練

自主防災組織

- 防災士養成
- 防災まち歩き
- マイ・タイムライン作成研修
- 防災シンポジウム

マイ・タイムライン作成研修

教職員

- Web版マイ・タイムライン作成研修
- 教員エデュケーター研修
- 教員東北研修
- 防災士養成（教員）

教員東北研修

外国人

- 日本人と外国人が参加する防災訓練
- 外国人留学生に対する防災訓練
- 在日外国人に対する防災教育

外国人留学生に対する防災訓練

防災士フォローアッププログラム

このプログラムは、松山市に在住または勤務し、「防災士」の資格を取得している方を対象に、防災活動を行う上で必要なスキルを向上させ、地域や企業の防災力を高めることを目的としています。個人のスキルや経験などに応じて受講できるよう、座学と実技を組み合わせた幅広いテーマの研修を、年間を通して行っています。

防災まち歩き防災マップ作り

トイレ設営研修

松山逃げ遅れゼロプロジェクト

「学校」「地域」「施設」を核にマイ・タイムラインを普及し、風水害での逃げ遅れをなくすことを目的としています。特に「学校」では、市立の中学1年生約4,000名が、学校のタブレットを使ってWeb上でマイ・タイムラインを作成しています。

市立中学1年生でマイ・タイムライン作成

- ◆ 市立中学1年生でマイ・タイムライン作成
- ◆ まつやま施設版タイムライン作成（福祉施設版、幼稚園保育園版、小中学校版）
- ◆ 地域でのマイ・タイムライン講師養成研修
- ◆ 命のはがきプロジェクト
- ◆ デジタル版マイ・タイムラインの運用

産官学民が連携した全世代型防災教育プログラムの策定

①防災教育プログラムの評価と実践サイクルを確立！

＼HP・YouTube・講演などで情報発信／

松山市防災教育推進協議会 → 防災教育プログラムの評価 → 松山防災リーダー育成センター

松山防災リーダー育成センター → 防災教育プログラムの改善・実践 → 松山市防災教育推進協議会

オール松山ですべての職域に防災教育を

②発達段階や職域に応じたプログラムで、小学生から高齢者まで途切れることなく防災学習

- **小中学生**：自分を守り地域を守る
- **高校生**：自分たちに何ができるか
- **大学生**：一人ひとりがリーダーに
- **地域（自主防・防災士）**：地域での指導
- **学校教員**：学校の安全性を向上
- **企業・福祉・外国人**：BCP・施設マニュアル・自己の安全

③全世代・職域で防災リーダー育成プログラムを展開！

小中高校生の防災リーダー
ジュニア防災リーダークラブ

大学生の防災リーダー
防災リーダークラブ

地域・職域ごとの防災リーダー
地域・学校・企業・福祉の防災士

取り組み①　学校防災教育の展開　～小中高大で継続した防災学習～

発達段階に応じた「身につける力」の目標を定め、防災教育を実践しています

切れ目のない防災教育による人材育成プログラム

小中学生：自分ひとりでも命を守り、地域の一員としても命を守ることができる

（左）**地域の方と防災まち歩き**
地域の過去の災害について調査

（中）**マイ・タイムラインづくり**
3年生が1年生に作り方をレクチャー

（右）**防災マップづくり**
完成品は銀行や農協に掲示しました

高校生：自分たちに何ができるか、自発的に考えられる

（左）**防災ずきん作り**
繊維科の専攻を活かした取り組み

（中）**海外とのオンライン防災交流**
タイやネパールの高校生と意見交換

（右）**課題研究発表**
防災マップをテーマに市に提言

大学生：一人ひとりが知識と行動力を持つリーダーに

（左）**小学生と防災マップづくり**
マップ作りのポイントを指導

（中）**被災地でのボランティア活動**
熊本地震や西日本豪雨で被災者支援

（右）**外国人への防災講座**
語学が堪能な大学生が先生に

取り組み②　次世代の防災リーダー「ジュニア防災リーダークラブ」

「私たちの未来は、私たちが守る！」を合言葉に、防災デイキャンプ、防災まち歩き・防災マップ作り等、様々な防災プログラムに挑戦します！

R6年5月

ジュニア防災リーダークラブ発足式
自分たちが住んでいる地域の危険を知るワークショップに挑戦、活動開始

6月

まるごと防災たんけん隊！！
松山河川国道事務所にて重信川の流量測定や土のう作りを体験

8月

NEXCO西日本・大洲河川国道事務所
建設中の橋梁やトンネルを見学
ダムの工事現場を見学

8月

見学会（阪神淡路大震災から学ぶ）
人と防災未来センターなどを見学
語り部の方から当時のお話を聞く

10月

防災まち歩き・防災マップ作り
地域の方とまちを歩いて、危険な所や防災設備を見学、防災マップを作成

11月

防災デイキャンプ
災害時に役立つパック調理を実施
防災についての実技を体験

12月

まるごと防災たんけん隊！！
松山地方気象台にて気象予報士の仕事や天気の観測について学習

R7年1月

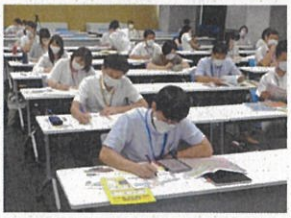
認定チャレンジ・自己課題の成果発表
防災リーダー育成センターオリジナルの検定に挑戦

取り組み③　学校を核とした家庭防災の強化

学校を核に、家庭や地域にマイ・タイムラインを普及し、風水害での逃げ遅れをなくすことを目的としています。中でも、**松山市立の全ての中学1年生4,000名**がマイ・タイムラインを作成しています。**「とどけ！命のはがきプロジェクト」**では、はがきを通して自分の大切な人に避難の重要性を伝える取組みを実施しています。

中学校１年生を中心としたマイ・タイムラインの学習

マイ・タイムライン作成授業

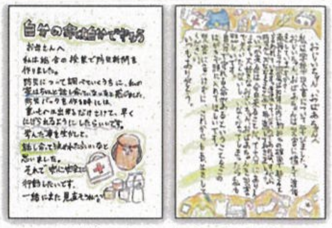

教員向けマイ・タイムライン作成研修

学校や地域、施設で、マイ・タイムラインの作成に取り組んでいます。松山市立の全ての中学1年生が実施する**「マイ・タイムライン作成授業」**にて作成したマイ・タイムラインはアプリを通じて家族と共有することができます。授業をする教員向けの研修も実施しています。

とどけ！命のはがきプロジェクト

中学１年生の生徒が「マイ・タイムライン作成授業で」を通して学んだ**「自然災害から命を守ることの大切さ」**をはがきに書いて、家族などに送るプロジェクトです。各家庭で「防災」や「早めの避難」について考える機会を創出しています。

大切な人を想いはがきを作成


家族に届いた命のはがき

小中 82校

取り組み④　学校教員への防災教育　～自分も子どもも守る人づくり～

防災士資格を持つ人材を中心に**学校教員への教育**と**サポートツールの開発**も実施。

防災基礎知識講座
避難情報やハザードマップの見方などをレクチャー。

防災授業の事前指導
防災教育を行う上でのポイントを事前に説明。授業にも育成センターのメンバーが立ち合い、振り返りも実施。

災害伝言ダイヤル「171」研修
NTTさんの協力で、実際に171の使い方を学びました。この後、各学校で子どもたちに使い方の授業を実施。

「HUG」研修
防災リーダークラブの大学生が支援。自分の学校が避難所になったら…と具体的な意見が多く出ました。

防災教育サポート動画の制作

コロナ禍でも防災教育を継続できるよう、12のテーマで防災教育の動画を制作しました。
国交省や地元企業、日赤など様々な団体の協力を得て完成。
市内全小中学校に配布し、YouTubeでも配信中。
動画にはジュニア防災リーダークラブのメンバーが出演しています。

防災教育サポート動画

松山防災リーダー育成センター
公式YouTubeチャンネルで絶賛配信中！

動画をみて、
防災マスターを
めざそう！

1　土砂災害について学ぶ　(約9分)
・土砂災害とは？・土砂災害はどうして起こるの？
【協力】国交省四国山地砂防事務所

2　洪水災害について学ぶ　(約13分)
・大雨になるとどんな被害が出るの？
・水害を防ぐためには？
【協力】国交省松山河川国道事務所

3　気象情報を防災に生かす
～気象情報が出るまで～　(約9分)
・気象情報はどうやって出されるの？
・気象情報をどう生かせばいいの？
【協力】松山地方気象台

4　マイタイムラインをつくろう　(約13分)
・マイタイムラインって何？・どうやって作るの？
【協力】松山市

5　地震に強い家・そなえる　(約9分)
・地震に強い家にするためには
どうすればいいの？
【協力】DCM株式会社

6　防災まち歩きをして
防災マップをつくろう　(約11分)
・防災まち歩きとマップづくりのポイントを知ろう
【協力】松山市

7　災害用伝言ダイヤル171　(約9分)
・災害時の安否確認に役立つ
伝言ダイヤル171の使い方を知ろう
【協力】日本公衆電話会・NTT西日本

8　誰にとっても安心なまち
～みんなが使いやすく
生活しやすい避難所～　(約8分)
・視覚・聴覚・身体に障害がある人に聞いてみよう
【協力】松山市社会福祉協議会

9　人間を救うのは人間だ
～日本赤十字～　(約6分)
・災害時の日赤の役割や
応急手当の方法と心肺蘇生法
【協力】日本赤十字社愛媛県支部

10　災害における報道の役割　(約9分)
・災害はどのように報道されてきたの？
・報道が果たした役割は？
【協力】愛媛新聞社

11　ハザードマップの見方を学ぼう　(約10分)
・自分の家や学校に
どのような災害の危険性があるか調べてみよう
【協力】松山市

12　防災訓練から
災害時にできることを学ぼう　(約7分)
・災害時に
どのような人たちが活動しているか知ってる？
【協力】松山市

動画視聴・チャンネル登録はこちらから！

松山防災リーダー
育成センター
公式YouTubeチャンネル

主な取り組み⑤　防災士のスキルアップ「防災士フォローアッププログラム」

防災士のスキルアップと防災士同士の連携を目的。
年間を通じて開催される１４の講座で防災士のスキルアップをサポート

① 防災気象情報の収集と活用
松山地方気象台ほか

② 上級救命講習
松山市消防局

③ ペット防災
ペット防災サポート協会

④ 災害時の食と栄養
松山東雲女子短期大学

⑤ 災害ボランティア
松山市社会福祉協議会

⑥ 救出活動・安全管理
松山市消防局

⑦ 避難所運営ゲームHUG
日本防災士会愛媛県支部

⑧ 避難所運営リアルHUG
日本防災士会愛媛県支部

⑨ 災害時のトイレ対策
日本防災士会愛媛県支部

⑩ 防災訓練の企と実践
日本防災士会愛媛県支部

⑪ 防災まち歩き・マップ作り
松山市

⑫ 住宅耐震・家具固定
DCM株式会社ほか

⑬ 要配慮者対策
日本防災士会愛媛県支部

⑭ 男女共同参画と防災
男女共同参画推進センター

防災士フォローアッププログラムとは

松山市に在住または勤務し、「防災士」資格を取得している方を対象に、防災活動を行う上で必要とされるスキルを向上させ、地域や企業の防災力を高めることを目的としたプログラムです。

※ 各自のスキルや経験などに応じて選択できるよう「初級者向け」「中級者向け」「上級者向け」に区分していますが、受講要件等はありませんので、ご自由に受講してください。

初級者向けプログラム

01 実技 住宅耐震・家具固定
家具転倒防止対策や住宅耐震化のほか、非常持ち出し袋、家庭内備蓄など、各家庭における災害への備えを学びます。

02 座学 災害時の食と栄養
過去の災害で起きた食の問題と、家庭で必要な備蓄について学びます。また、「パック調理」など、災害時に役立つ調理スキルを身に付けます。

03 座学 HUG（避難所運営ゲーム）
カードゲーム「HUG」を通じて、避難所運営について学びます。避難者や様々な問題に対応し避難所運営のイメージを掴みます。

04 実技 救出技術・初期消火・安全管理
倒壊した家屋や転倒した家具からの救出方法や初期消火の方法のほか、活動を行う上での安全行動などについて学びます。

05 実技 防災まち歩き・防災マップ作り
地域をめぐり、危険箇所や災害対応に役立つ施設や設備などを把握した後、地図に落として手作りハザードマップを作成する手法を学びます。

06 座学 防災・気象情報の収集と活用
防災・気象情報の種類と内容を理解するほか、収集・活用方法とともに、マイ・タイムラインの作成について学びます。

中級者向けプログラム

07 座学 災害時のトイレ対策
過去の災害で起きた様々なトイレの問題を学びます。ワークショップでは、避難所でのトイレの設置方法やトイレテントの明かり対策などを実際に体験します。

08 座学 災害ボランティア
災害ボランティアセンターの役割や行政・社会福祉協議会・NPOの連携の重要性を学びます。また、ボランティアを行う際の注意事項なども習得します。

09 座学 防災訓練・研修の企画と実践
地域の防災訓練や研修会を企画・立案・実践できる技術を身に付けます。また、わかりやすい資料作成の方法や説明の手法も学びます。

10 座学 ペット防災
ペットの飼い主が平常時から備えておくべき対策をはじめ、避難所でのペットの取り扱いなどについて学びます。

上級者向けプログラム

11 実技 上級救命講習
成人・小児・乳児に対する心肺蘇生法やAEDの使い方、止血法、異物除去法、搬送法などを、普通救命講習より高度な応急処置として学びます。

12 座学 男女共同参画と防災
男女共同参画の視点から災害対応を進める上での基本的な考え方や、平常時の備え、初動段階、避難生活、復旧・復興の各段階での取り組むべき事項を学びます。

13 実技 リアルHUG（避難所運営ゲーム）
大規模災害時に、様々な人が避難してくる中、どのように避難所のレイアウトを考え、避難者に対応するかなど、避難所運営を模擬的に体験します。

14 座学 要配慮者支援
災害が発生した時、特に配慮が必要となるのは、どのような人で、どのような対応が必要か、ワークショップなどを通じて学びます。

取り組み⑥　外国人への防災教育　～松山市の在住外国人が安全に身を守る～

松山市に住む外国人が安全に身を守り、災害リスクや必要な備えを理解する「パイプ役となる人材」を育成する。

愛媛大学新入留学生オリエンテーション
春と秋に行われるオリエンテーションの場で、新入留学生への基本的教育（地震・風水害のリスクと備え、119番通報など）

日本、松山市の災害リスクを知る
在住外国人それぞれの母国では、地震が起こらない国もあり、日本に住むことのリスクを知り、備えを整える。

出身国による生活や文化の違い
文化的相違による災害時の困りごとなどを整理し、パイプ役となる人材を育てる。

それぞれのプログラムに外国人の視点を
企業や施設などに所属する外国人への対応として、それぞれのプログラムに外国人の視点を盛り込む。

多文化共生防災プロジェクト！「まつやまbosaiワークブック」

日本人、外国人が相互に防災について学び、国を超えていざという時に助け合うため、多文化理解を深める防災ワークブック（英語、ベトナム語、簡体語、日本語）と防災訓練プログラムを作成！

産官学民が連携した全世代型防災教育　ーレジリエンスへの３つの効果ー

地域防災力の向上

世代や職域に合わせた継続的な防災教育により
みんなで「災害に強いまち」をつくります。

多様な視点を持つリーダーの成長

異なる背景を持つ人々とふれあうことで、
多様性を認め、共に生きる意識を持った
人材が成長しはじめています。
防災を通じ、多様な視点を持つリーダーを育てます。

防災での地域活性化

若い世代が地域で活動することで、
まち全体が活性化しています。
世代や職業を超えた関係づくりを継続し、
さらなる地域の活性化を目指します。

これからの未来に立ち向かう
強くてしなやかな人づくり・まちづくり

「松山逃げ遅れゼロプロジェクト」の展開

マイ・タイムラインの普及で逃げ遅れゼロを目指す「松山逃げ遅れゼロプロジェクト」を新たに開始。（令和４年度～）
学校・地域・施設を中心に、市内全域で展開。

学　校

市内の全中学校の1年生にマイ・タイムラインの授業を実施。学んだことをはがきで大切な人に送る「命のはがきプロジェクト」も展開。

地　域

自主防災組織を中心に全地区でマイ・タイムラインの講師を養成する研修会を実施し、講師がさらに地域でマイ・タイムラインを普及。

施　設

福祉施設、小中学校、保育園・幼稚園の各施設と地域が連携して、施設版タイムラインの作成を進め、自力避難が難しい施設を支援。

産官学民でサポート！

松山市防災教育推進協議会、松山防災リーダー育成センター

国土交通省、松山市教育委員会、松山市消防団、松山市自主防災組織ネットワーク会議、愛媛県中予郵便局長会
松山市女性防火クラブ連合会、松山市社会福祉協議会、ライオンズクラブ　ほか

松山逃げ遅れゼロプロジェクト①

防災を学んだ高校生が市に提案

「防災マップといっしょにマイ・タイムラインシートを全戸配布する」という高校生の提案。

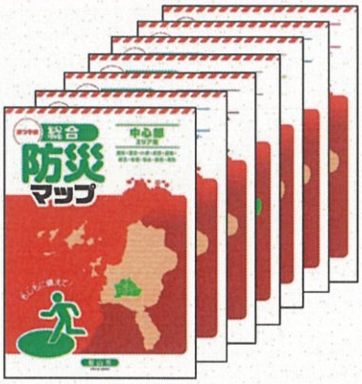
発展的に防災を学べるしくみが、当事者意識を持ち、「自分たちに何ができるか」主体的に考えられる人材の育成につながっています。

ジュニア防災リーダークラブの松山東高校のみなさんは、3年間を通じて校内アンケートや体験学習をしながら「防災に強い人づくり、まちづくり」に必要なことは何か考えました。その成果を、「防災教育フォーラム」で提案発表しました。

防災マップとマイ・タイムラインシートを全戸配布（高校生の提案が実現）

令和４年３月に、リニューアルした新・「総合防災マップ」と新たに作成した「マイ・タイムラインシート」を全戸に配布。

３年間の学びを通じて感じた、斬新は高校生の手案が実現。



松山逃げ遅れゼロプロジェクト②

マイ・タイムラインをデジタル化

令和５年４月から「松山市マイ・タイムライン防災アプリ」を導入し、簡単に家族の防災行動計画が作成できる。

作成したマイ・タイムラインは、二次元バーコードやLINEなどを通じて家族で共有できる。

災害時、防災気象情報や避難情報プシュッ通知で受信でき、開設している避難所もスマートフォンで確認できる。

市立全中学校でマイ・タイムラインの学習もDX

松山市立全中学校１年生約４，０００人のマイ・タイムラインの学習、Web版マイ・タイムラインも導入し、DX化。

学校で作ったマイ・タイムラインが、アプリをインストールした保護者のスマートフォンに転送。。

学校の学びを家庭の備えにつなげる

これまでの活動に対する評価

受賞歴一覧

受賞名	受賞者
令和3年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」 URレジリエンス賞 ぼうさい大賞（大学生部門）	ジュニア防災リーダークラブ 防災リーダークラブ
第26回防災まちづくり大賞 消防庁長官賞	松山防災リーダー育成センター
令和4年度松山市市民活動推進事業表彰 市民活動団体表彰部門	防災リーダークラブ
第8回ジャパン・レジエンス・アワード 準グランプリ　二階俊博国土強靭化提唱者賞	松山市 松山防災リーダー育成センター
2022年日本防災士機構防災士表彰 防災士功労賞	防災リーダークラブ
令和4年度優良青少年団体知事表彰	防災リーダークラブ
令和4年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 振興奨励賞	松山防災リーダー育成センター
令和4年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」 優秀賞（中学生部門）	ジュニア防災リーダークラブ
令和6年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」 はばタン賞	ジュニア防災リーダークラブ
第11回ジャパン・レジエンス・アワード 内閣総理大臣賞	松山市 松山防災リーダー育成センター

令和4年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」 表彰式

第11回ジャパン・レジリエンス・アワード　表彰式　（中央は松山市長）

ご清聴ありがとうございました

道後温泉本館

松山城

高松市のプロフィール

TKMT

年月		
1890年2月	市制施行	人口:33,863人 面積:2.85Km²
1999年4月	中核市に移行	
2005年9月	塩江町と合併	
2006年1月	牟礼町、庵治町、香川町、香南町、国分寺町と合併	
市長:大西 秀人(2007年4月～ 現在5期)		

(2025.7.1現在)

総人口(登録人口)	416,109人
高齢化率(65歳以上/全人口)	28.9%
世帯数	206,081世帯
面積	375.67Km²

TKMT

本日のご説明内容

1. スマートシティたかまつの概要

2. 各分野における取組事例
（防災分野/観光分野/福祉分野）

3. 産学民官連携の仕組み
（スマートシティたかまつ推進協議会）

4. その他の取組
（FACT/高松DAPPY/デジタルデバイド対策/市民通報/たかまつデジタル市役所）

TKMT

スマートシティたかまつ

G7香川・高松情報通信大臣会合（平成28年4月）

スマートシティたかまつ　取組経緯

TKMT

平成28年　G7香川・高松情報通信大臣会合

平成29年　「データ利活用型スマートシティ推進事業」採択
スマートシティたかまつ推進協議会設立

平成30年　IoT共通プラットフォーム運用開始
スマートシティたかまつシンポジウム2018

令和元年　スマートシティたかまつ推進プラン策定
スマートシティたかまつシンポジウム2019

令和2年　IoT共通プラットフォーム3市町共同利用開始
スーパーシティ構想検討開始

令和3年　「フリーアドレスシティたかまつ」コンセプト
スーパーシティ構想提案

令和4年　スマートシティたかまつ推進プラン（2022-2024）策定
デジタル田園都市国家構想推進交付金事業（TYPE3）

令和5年　デジタル田園都市国家構想交付金事業（TYPE2、地方創生推進タイプ）

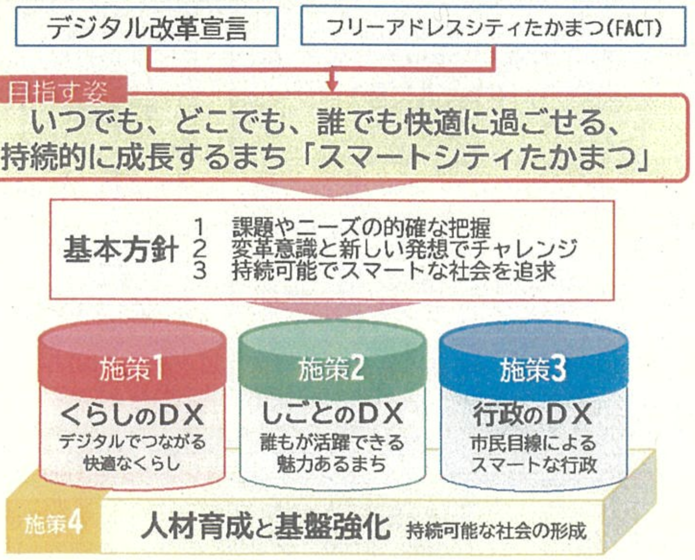
令和7年　スマートシティたかまつ推進ビジョン（2025-2031）策定

4

スマートシティたかまつ　プロジェクトの推進

TKMT

人口減少、少子・超高齢社会の本格到来やデジタル技術の急速な進展など、本市を取り巻く社会情勢が大きく変化しており、今後においては、本市のスマートシティやデジタル戦略を社会全体で共有を図りながら、組織横断的に取組を推進することが求められているため、今後の取組における理念や目指すべき方向性を定めた「**スマートシティたかまつ推進ビジョン（2025～2031）**」を策定しています。



5

スマートシティたかまつ　プロジェクトの推進

TKMT

アクションプラン2025

施策1　くらしのＤＸ

No.	取組	担当課
1	デジタル化による子育て環境の充実	こども保育教育課
2	ゼロカーボンシティの実現に向けたエネルギー利用の最適化	ゼロカーボンシティ推進課
3	地理空間データ基盤を活用したサービスの創出	都市計画課/デジタル社会基盤整備室
4	中心市街地の活性化に向けたデータ収集・分析	都市計画課/住宅まちづくり推進室
5	タクシーを活用した新たな交通モードの創出	交通政策課
6	駐車場の満空情報の収集と利活用	交通政策課
7	学校教育におけるデジタル化の推進	総合教育センター/ICT教育推進室
8	こどもの学びを地域で支える地域学習プラットフォームの利活用推進	デジタル戦略課
9	図書館のデジタル化・デジタルアーカイブの推進	中央図書館

施策２　しごとのＤＸ

No.	取組	担当課
10	市内中小企業等のデジタル化支援	産業振興課
11	購買データの活用によるサービス提供	デジタル戦略課
12	情報通信関連企業の誘致	企業立地推進課
13	サテライトオフィスの誘致	企業立地推進課
14	スマート農業の推進	農林水産課
15	デジタルを活用した高松盆栽の普及事業	農林水産課
16	音声ガイドアプリを活用したコンテンツツーリズムの推進	観光交流課
17	屋島活性化に向けたデジタル活用	観光交流課 観光エリア振興室

施策３　行政のＤＸ

No.	取組	担当課
18	市からの情報発信の高度化	広聴広報・シティプロモーション課
19	窓口DXの推進	デジタル戦略課/市民課
20	業務改革に資するツール等の導入	情報マネジメント課
21	地理空間データ基盤のデータ・機能拡充	都市計画課/デジタル社会基盤整備室

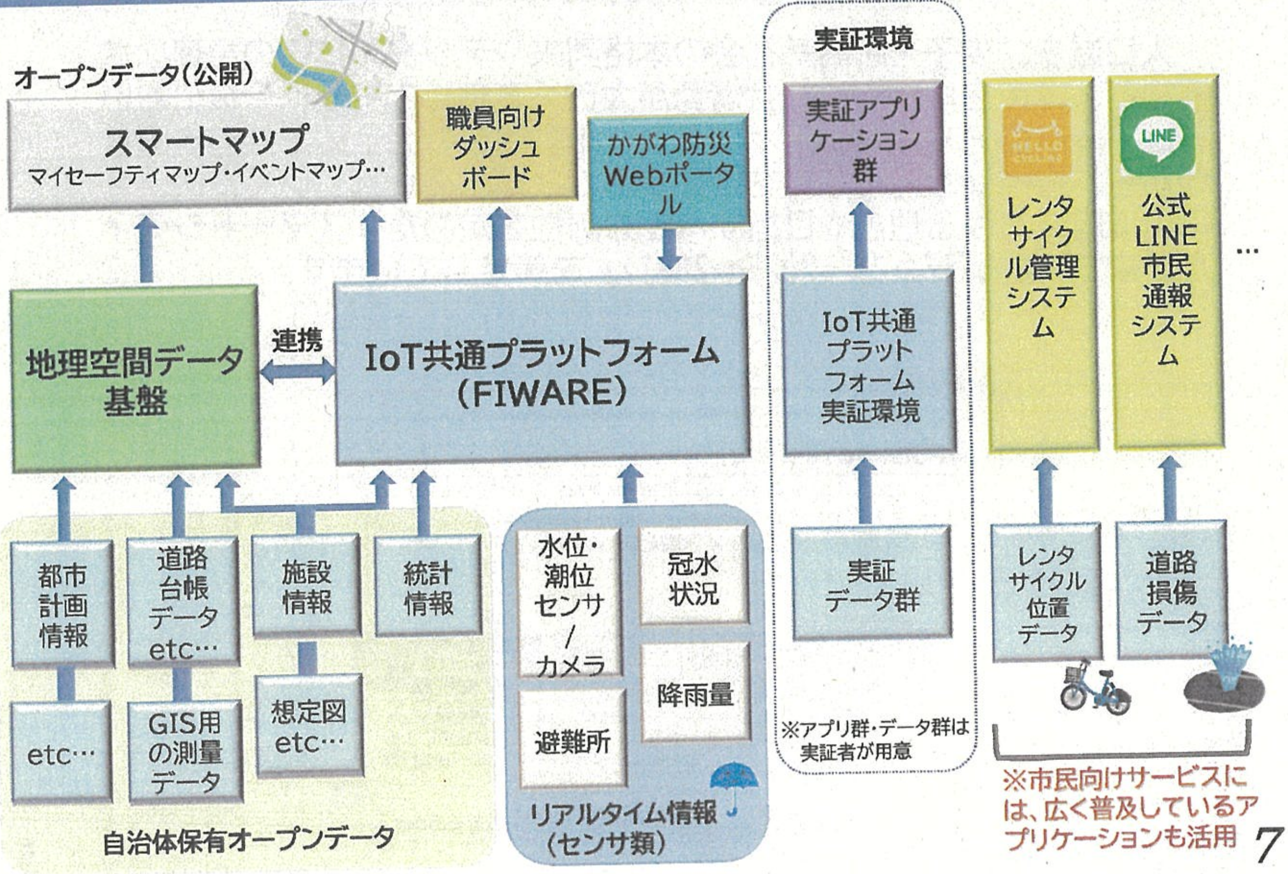
施策４　人材育成と基盤強化

No.	取組	担当課
22	デジタル化への職員の意識改革（デジタル人材の育成）	デジタル戦略課
23	デジタル化に対応した職員の情報セキュリティ意識の向上	情報マネジメント課
24	スマートシティたかまつ推進協議会との連携	デジタル戦略課
25	オープンデータの推進	デジタル戦略課
26	地域間連携の促進	デジタル戦略課/政策課
27	データ利活用人材の育成と人材コミュニティの創出	デジタル戦略課
28	地域コミュニティを中心としたデジタルデバイド対策	デジタル戦略課
29	地域コミュニティのデジタル化支援	協働コミュニティ推進課

6

スマートシティたかまつ　関連システム全体イメージ

TKMT



7

データ連携基盤等に関する費用

TKMT

項目	年度	事業内容・構築内容	財源 （補助金・交付金の所管を括弧内に記載）	補助率	金額
イニシャルコスト	H29	データ連携基盤（FIWARE）の構築 各種センサ、システム構築費	データ利活用型 スマートシティ推進事業（総務省）	1/2	87,480千円
	H30	データ連携基盤（FIWARE）の改修、 各種センサ、システム構築費	市の単費	－	19,980千円
	R3	データ連携基盤（FIWARE）の改修	市の単費	－	13,046千円
	R4	地理空間データ基盤の構築	デジタル田園都市国家構想推進交付金 （内閣府）	2/3	121,332千円
	R4	パーソナルデータ連携基盤の構築	デジタル田園都市国家構想推進交付金 （内閣府）	2/3	94,100千円
	R5	地理空間データ基盤の改修	デジタル田園都市国家構想交付金 （内閣府）	1/2	75,038千円
ランニングコスト	R5	データ連携基盤（FIWARE）の運用保守	市の単費	－	12,265千円
	R5	地理空間データ基盤の運用保守	市の単費	－	4,620千円
その他	H29	地域一体型バーチャルケアによる 介護予防事業	IoTサービス創出支援事業（総務省）	1/1	34,995千円
	H30	保育施設等AI入所選考事業	地域IoT実装推進事業（総務省）	1/1	14,605千円
	H30	FIWAREの実証環境構築	オープンデータを活用した地域におけう 交通分野の課題解決に資する調査研究に 係る請負（総務省）	1/1	18,000千円
	R2	デジタルデバイド対策事業	デジタル活用支援員推進事業（総務省）	1/1	1,703千円

TKMT

1. スマートシティたかまつの概要

2. 各分野における取組事例
（防災分野/観光分野/福祉分野）

3. 産学民官連携の仕組み
（スマートシティたかまつ推進協議会）

4. その他の取組
（FACT/高松DAPPY/デジタルデバイド対策/
市民通報/たかまつデジタル市役所）

TKMT

各分野における取組例（背景）

防災分野と観光分野でプロジェクトを開始

■防災分野

○日本の中では災害の発生が比較的少なく、市職員が災害対応の経験を積んでいない

○悪条件が重なると、都市機能と海との近さが仇となり、広範囲に被害が発生する危険性

■観光分野

○中心市街地が平坦であり、自転車を利用しやすい条件が揃っている

○市が運営するレンタサイクル事業を活用し、大きなコストをかけずに観光客のデータを収集

平坦な中心市街地

TKMT

防災分野において収集・利活用するデータ

センサーから取得した水位等のリアルタイムデータと、地図情報等を組み合わせたデータ利活用を行うことで、早期の安全対策の実施、災害対応の効率化

リアルタイム情報等

■水位・潮位センサー

○高松市水防計画指定水位・潮位観測地点より選定した河川、水路に設置

○カメラ（静止画）画像による状況把握

■想定図等（地図情報）

○土砂災害危険区域図等の地図情報とセンサー等から得られる情報を組み合わせデータ利活用を実施

■県防災情報との連携

○「かがわ防災Webポータル」より水位情報やダム情報を入手し、県防災情報と地域情報を組み合わせたデータ利活用を実施

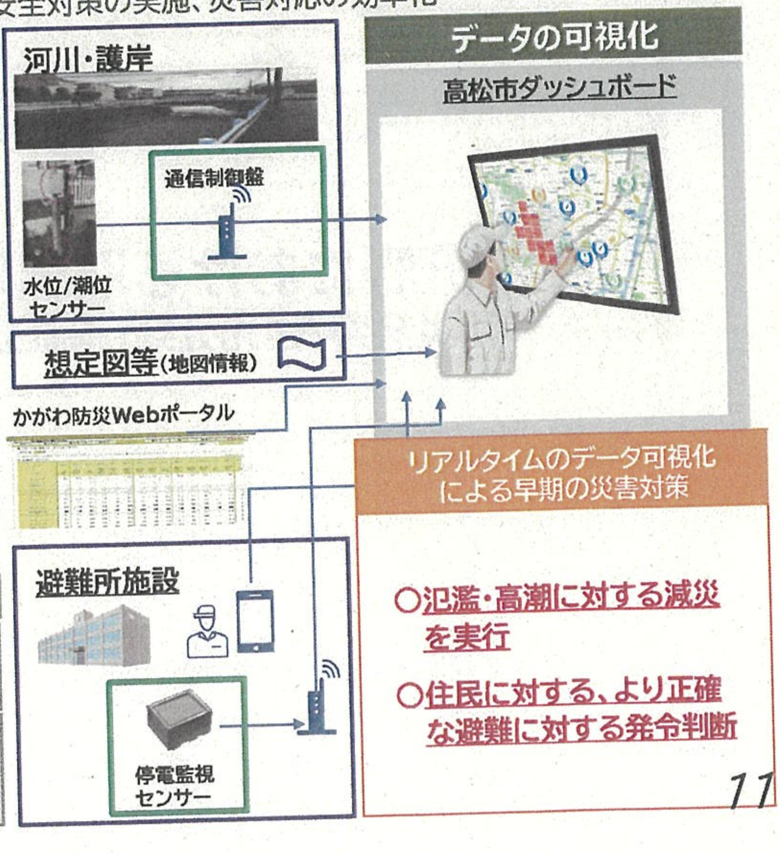
避難所の安全情報

■停電監視

○電力通電情報から避難所の状況を把握

■スマートフォンアプリ

○災害時指定職員が避難所の開設の有無、避難者情報など、避難所の状況を入力



防災分野において収集するデータ(設置イメージ)

TKMT

制御ボックス、水位・潮位センサーを設置する。

水位:9箇所+可搬型3箇所(追加整備)
潮位:5箇所

2023年度 センサー更新・1箇所追加

設置イメージ

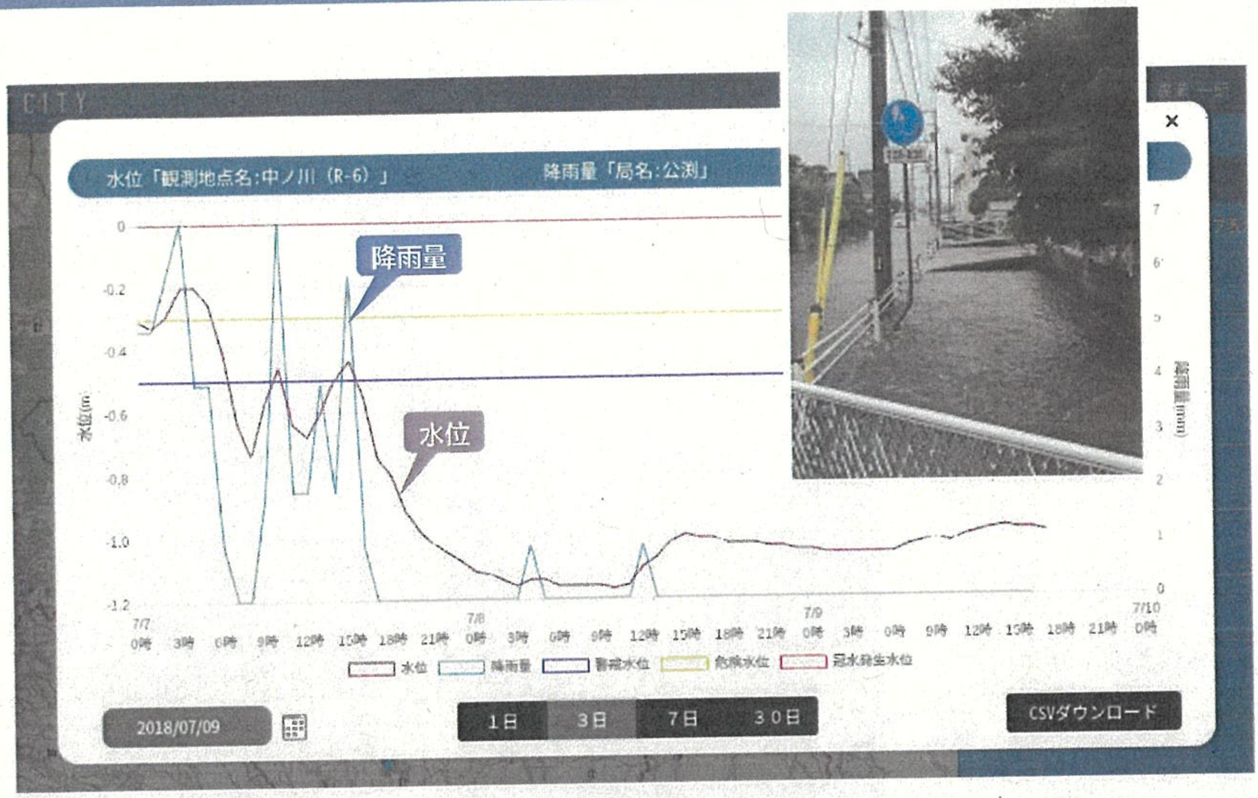
防災分野のダッシュボード画面表示

TKMT

○収集した情報(水位、潮位、冠水状況、避難所情報等)を地図上にアイコン表示
○アイコンクリックで詳細情報(測定値、カメラ画像等)を表示
○レイヤ(浸水想定区域等)、県防災管理データの重ね合わせ

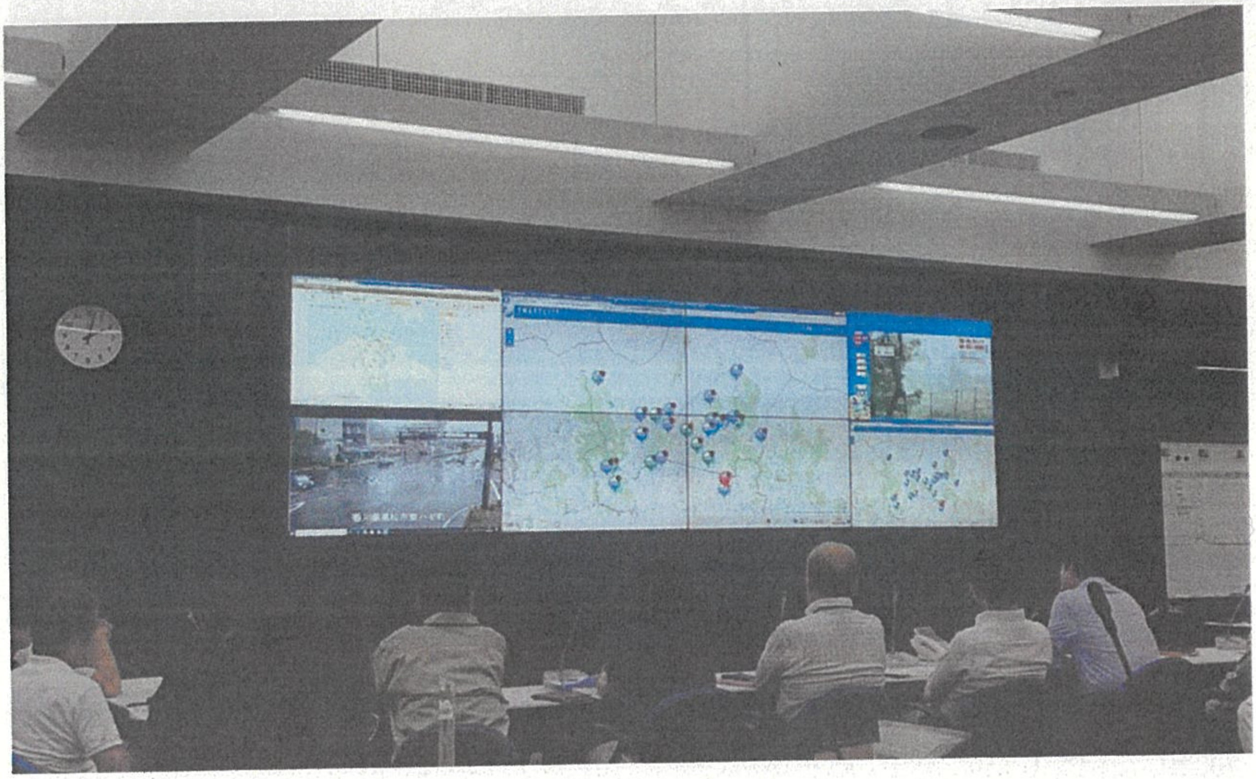
防災分野のダッシュボード画面表示

TKMT



災害対策本部における活用

TKMT



たかまつマイセーフティマップ（市民向け）

↑
こちらから
ご確認できます

たかまつマイセーフティマップとは？

○**市民ひとりひとり**にとっての災害リスクと、防災施設・サービスが見える**防災アプリ**

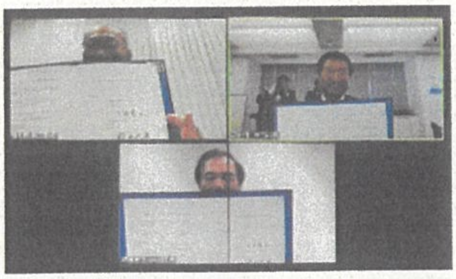
○本市の**IoT共通プラットフォーム**に収集しているデータ、本市の**オープンデータ**、デジタル化した**ハザードマップ・道路**のデータを利用

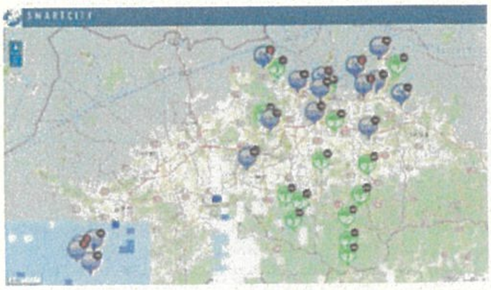
防災分野の広域展開

TKMT

■令和2年3月に瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の綾川町、並びに観音寺市とともに、本市の構築したIoT共通プラットフォームを共同利用する協定を締結

令和2年度より、負担金方式で、高松市の導入したデータ連携基盤を近隣2市町で共同利用





まずは、防災分野で活用し、高松市の他、**綾川町**、**観音寺市**の水位・潮位データを収集するほか、気象や道路の通行実績情報など、防災・減災に必要なデータも新たに収集し、本市のIoT共通プラットフォーム上に一元的に表示。

➡ 災害時に、広域で、迅速に情報を共有

Pickup!

この取組が評価され、令和3年度「情報通信月間」総務大臣表彰を受賞！

観光分野におけるデータ利活用事例

TKMT

レンタサイクルの利用動態から特に外国人観光客の動態を分析し、施策展開に活用

GPSロガーによるデータの蓄積

■起終点の把握
○座標データより、自転車利用の出発地、目的地の位置が把握可能

■利用経路・行動範囲の把握
○座標データより、自転車が通過した軌跡が分かり、走行した利用経路が把握可能

■移動時刻・滞在時間の把握
○ログの取得時刻により、移動時刻や到着時刻、目的地における滞在時間が把握可能

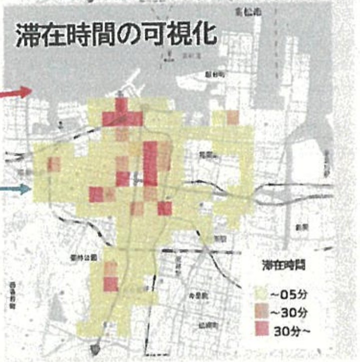
利用者登録

■利用者属性・目的等の把握
○利用者登録より、利用者属性(性・年代、国籍)や利用目的を把握

データの可視化

出発地・目的地・移動経路の可視化

滞在時間の可視化



観光・MICEの振興

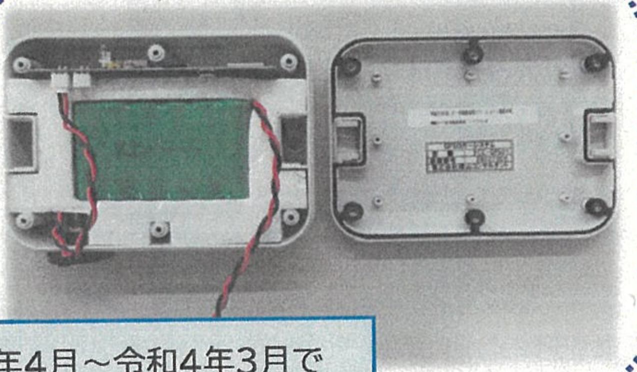
- レンタサイクルを使用する外国人観光客の訪問先を把握し、多言語対応
- レンタサイクルを使用する観光客の訪問先を把握し、新たな観光資源を発掘

○上記により、高松を訪れる観光客の満足度向上や、新たな観光資源を活用した観光施策を展開(未達)

観光分野におけるデータ利活用事例(設置イメージ)

TKMT

市直営レンタサイクルの自転車**1,250**台のうち、**50**台に**GPSロガー**を取付



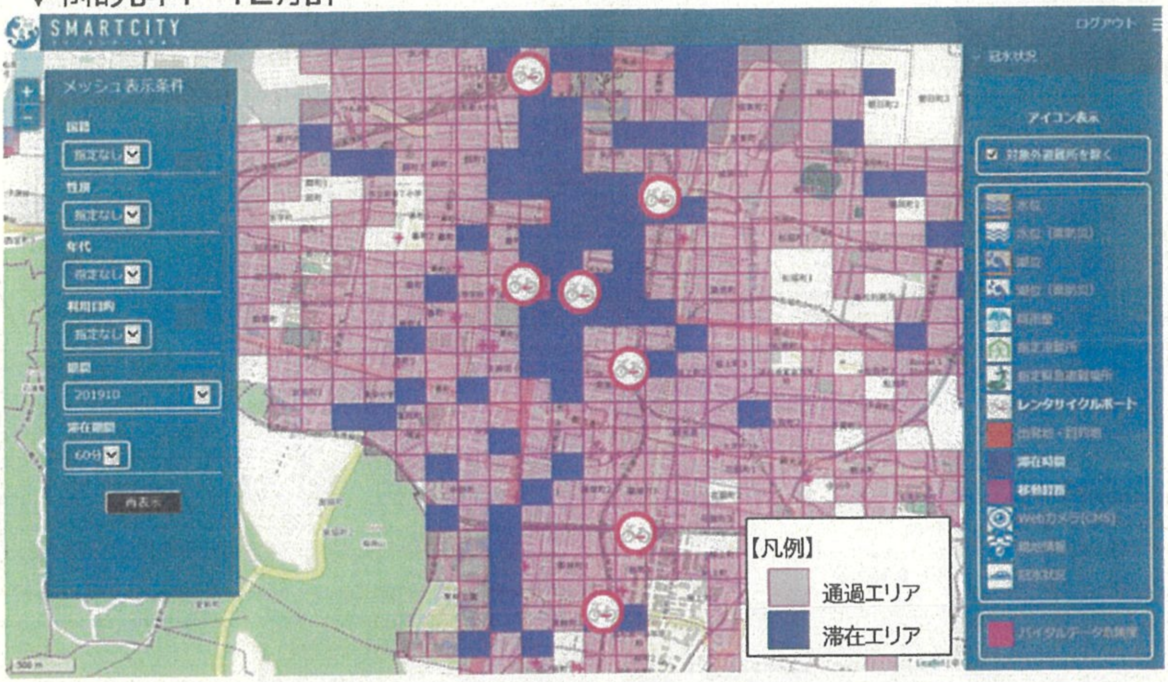
平成30年4月～令和4年3月で
合計**6,475**件のログ取得
(令和4年度からシステム入替)

➡ 全国展開のサービス(アプリ)の導入で観光客の利便性向上

HELLO CYCLING

観光分野のダッシュボード画面表示

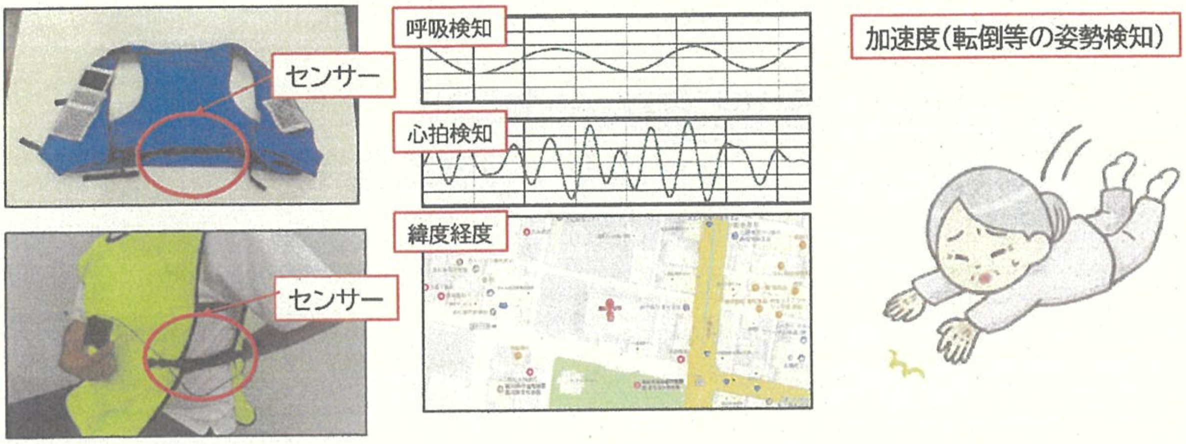
▼令和元年1～12月計



○利用者の出身内訳は**韓国**(42%)、**中国**(23%)、**台湾**(13%)、**香港**(13%)等
○**韓国・中国**はショッピングの目的地が多い、**欧米・香港**は周遊範囲が広い、
台湾は周遊範囲が狭い等、<u>一定の傾向が観測できる。</u>

福祉分野における取組(実証実験)

○ 高齢者見守りへのICTの活用として、**香川高専、(株)ミトラとの連携協定**に基づいて、呼吸や心拍等のバイタル情報が把握できるウェアラブルIoT機器を開発し、ICTを活用した地域包括ケアシステムの構築の推進を図る。
○ **「地域一体型バーチャルケアによる介護予防推進事業」**として、平成30年度総務省「IoTサービス創出支援事業」に採択。



((株)ミトラ資料)

福祉分野の実証実験の様子

TKMT

■実証実験の様子

高松市主催の健康講座受講者
(比較的元気な高齢者)
実施日：10月14日
場　所：瓦町健康ステーション（高松市瓦町）

【受付にて機器を装着】

【講座前に基本動作を測定】

【講座中の測定】

高松市内の通所介護事業所の利用者
(介護保険の要支援・要介護認定者)
実施日：10月15日
場　所：エデンの丘デイサービスセンターえんがわ(高松市鶴市町)

【デイサービスでのラジオ体操1】

【デイサービスでのラジオ体操2】

【スタッフによる測定・記録】

TKMT

1. スマートシティたかまつの概要

2. 各分野における取組事例
(防災分野/観光分野/福祉分野)

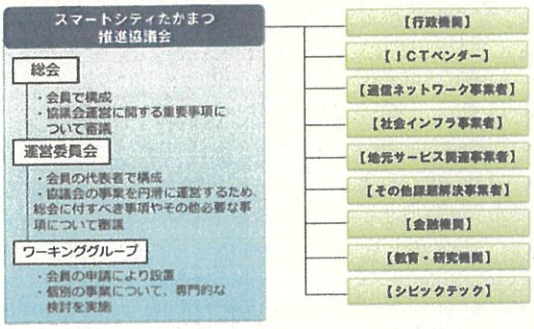
3. 産学民官連携の仕組み
(スマートシティたかまつ推進協議会)

4. その他の取組
(FACT/高松DAPPY/デジタルデバイド対策/
市民通報/たかまつデジタル市役所)

スマートシティたかまつ推進協議会の設立と主な取組 TKMT

平成29年10月に、産学民官の多様な主体との連携を通じて、IoT共通プラットフォームを活用した、官民データの収集・分析による地域課題の解決を目指し、**スマートシティたかまつ推進協議会**(会長:高松市長)を設立。

【会員数】**157**者
※令和7年2月現在



協議会内に各分野ごとにワーキンググループ(WG)を組成し、産学民官が連携して、課題の整理から始め、実証事業を重ねながら、社会実装を目指した取組を進めている。
また、市民参加型のスマートシティを目指し、協議会として、シンポジウムや人材育成講座の開催など、普及啓発活動を実施してきた。

■現在活動中のワーキンググループ※一部抜粋

名称	活動期間	検討内容
人材育成環境向上WG	R元.5～	ICT・データ利活用人材の育成環境向上策を検討。 香川大学米谷准教授による取組で、大学の持つアプリ開発支援のプラットフォーム(※データ基盤に実証環境を利用)四国の地域イベントにおけるプロトタイプ検証、地域住民によるスマートシティの実践を通じた人材育成に活用。
決済データを活用した商店街DX WG	R6.8～	マイデジアプリの活用により集まったレシートデータの解析と活用方法を検討

スマートシティたかまつ推進協議会の設立と主な取組 TKMT

■過去設置したワーキンググループ※一部抜粋

名称	活動期間	検討内容
交通事故撲滅WG	H30.2～ H30.8	交通マナー向上を図るため、営業車等のドライブレコーダーに記録されたビッグデータを収集・分析
防災IoT活用WG	H30.5～ R1.8	平成29年度に設置した水位・潮位センサー等に加え、効果的な防災IoTの拡充策(カメラ設置、アンダーパスの情報等)、入手したデータの分析(雨量、水位・潮位、地形等)による未来の予測、市民等への情報提供や活用方法等の検討 ➤検討結果を踏まえ、当初設置した目的に見合った成果が得られたため、WGを終了
地域ポイントを活用した健康経営WG	H30.5～ R5.3	健康経営のインセンティブとして企業が付与する地域ポイントの使途と効果の分析方法を検討
観光情報利活用WG	H30.8～ R2.11	散在する観光情報を利活用するための方法及び観光客の満足度向上につながる情報発信の方策を検討
デジタルデバイド対策WG	R2.8～ R4.3	デジタルデバイド(情報格差)の解消に向け、地域の身近な人からICTについて学べる体制(デジタル活用支援員体制)について検討 ➤実証結果を踏まえ、R4年度から事業化
デジタル市民参加プラットフォームWG	R4.9～ R5.3	市民参画ツールについて、スマートシティたかまつ推進協議会内部での活用や広域連携等、その他活用の検討を行う ➤ツールの使用状況と評価検証を行い、一旦WGは終了

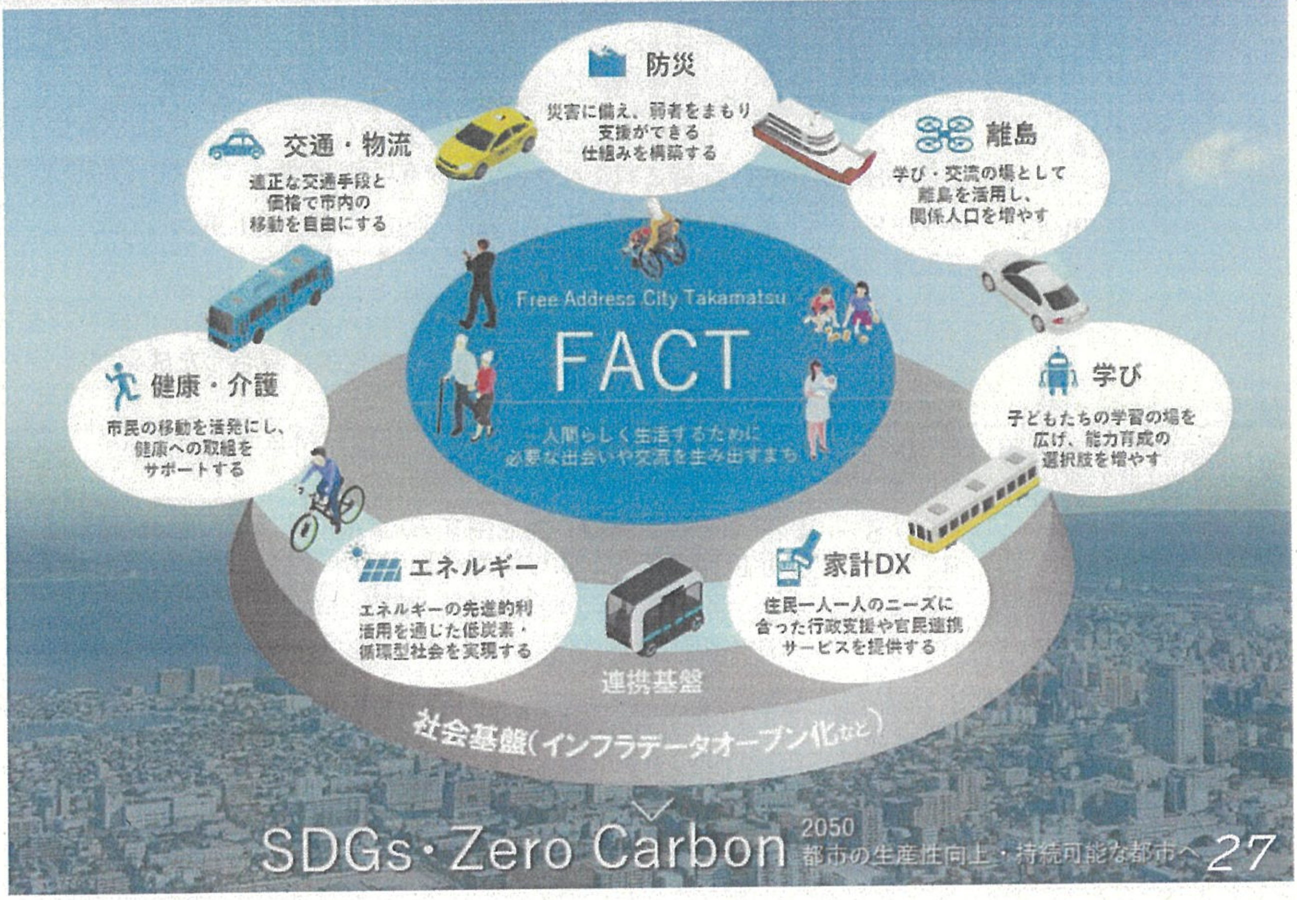
1. スマートシティたかまつの概要

2. 各分野における取組事例
（防災分野/観光分野/福祉分野）

3. 産学民官連携の仕組み
（スマートシティたかまつ推進協議会）

4. その他の取組
（FACT/高松DAPPY/デジタルデバイド対策/
市民通報/たかまつデジタル市役所）

フリーアドレスシティたかまつ（FACT）



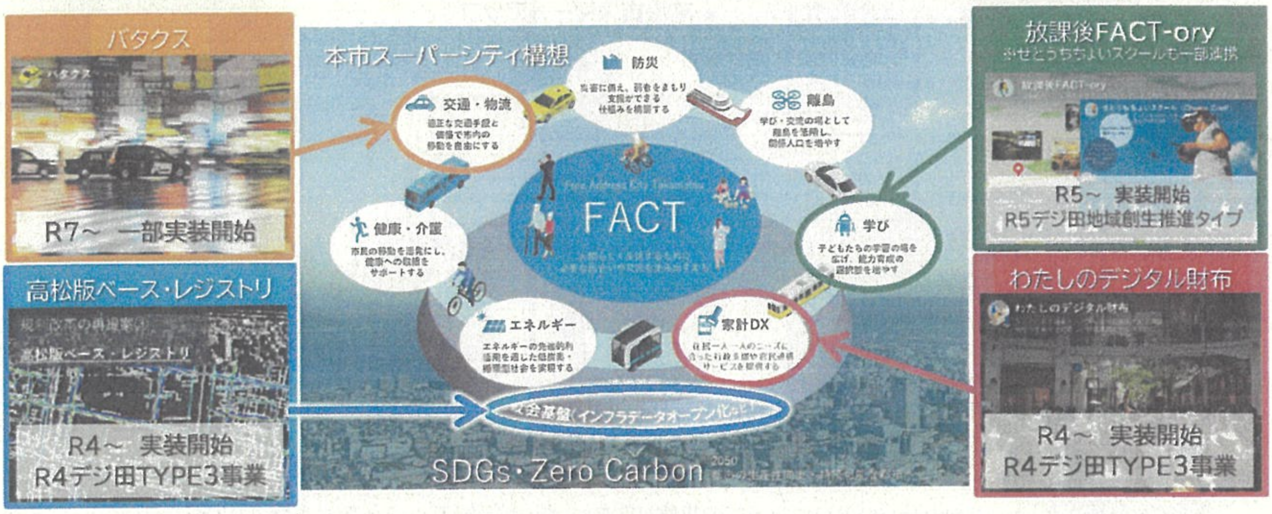
フリーアドレスシティたかまつ(FACT)

TKMT

目指す都市像　「フリーアドレスシティたかまつ(FACT)」

時間や場所の制約から解放され、デジタルをツールに「ひと」と「ひと」がつながることにより、人間らしく生活するために必要な出会いや交流を生み出すまちの実現を目指す

実施中の事業



FACTによる事業　【バタクス】

TKMT

一部実装

タクシーを活用した新しい交通モード創出に向けた実証事業を実施。

バタクス

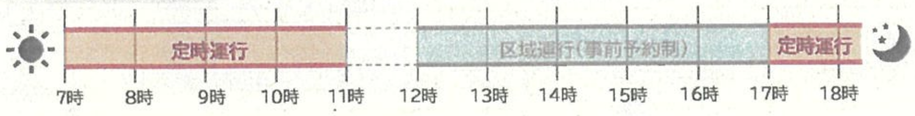
ｸﾞﾘｰﾝﾀｸｼｰ、香南ﾀｸｼｰ、ことでんﾀｸｼｰ　が運行

定時運行
- 決められたルート・ダイヤで運行、バス停でお待ちください
- 3社の事業者がタクシー(普通車)で運行
- 4人まで乗車可、運賃は1人 200円

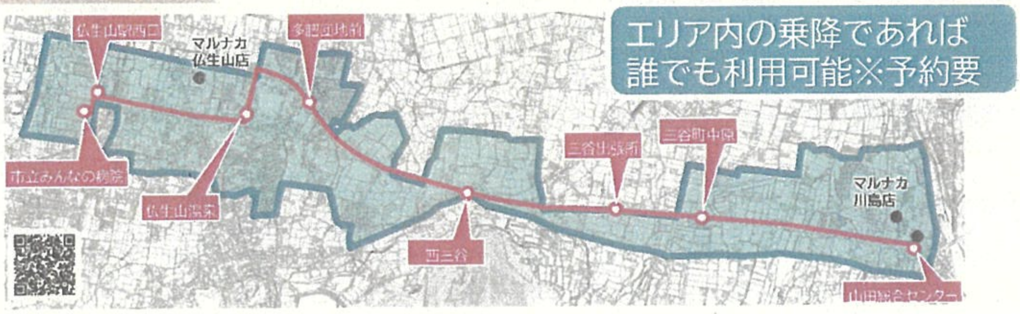
区域運行
- 時間限定、エリア限定で自宅等から目的地まで移動可能(事前予約制)
- 3社の事業者がタクシー(普通車)で運行
- 同一目的地・時間帯なら4人まで乗り合わせ可能、運賃は1回 600円

R7.1.14～実装

運行時間帯



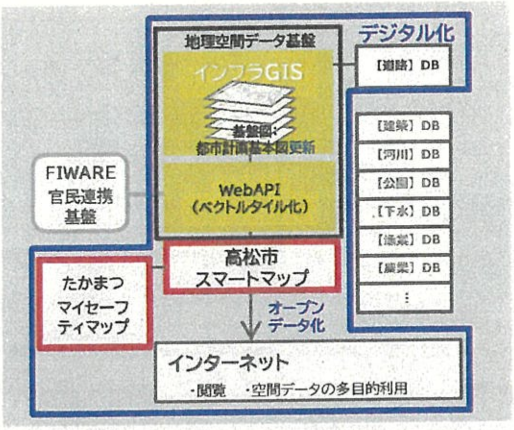
運行ルート



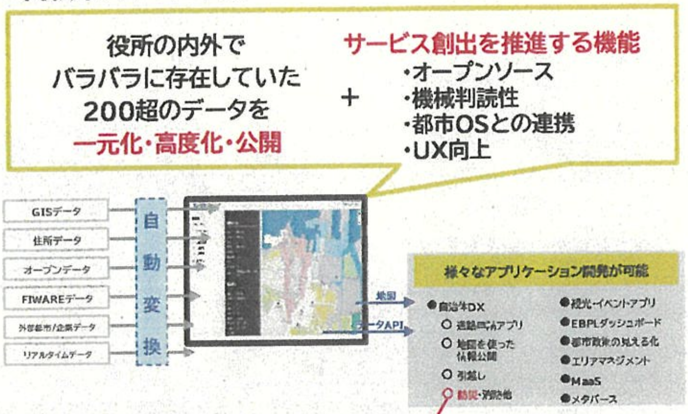
FACTによる事業 【高松版ベースレジストリ】

行政が所有するベース・レジストリのうち汎用性の高いデータである道路台帳をデジタル化し、既にデジタル化されたデータと集約して一元的に可視化・オープンデータ化することで、行政データを誰でも多目的利用可能とした「高松市スマートマップ」を構築。

また、その機能を活用して、市民ひとりひとりにとっての災害リスクと防災施設・サービスが見える防災アプリケーションを開発。



● 高松市スマートマップ



● たかまつマイセーフティマップ

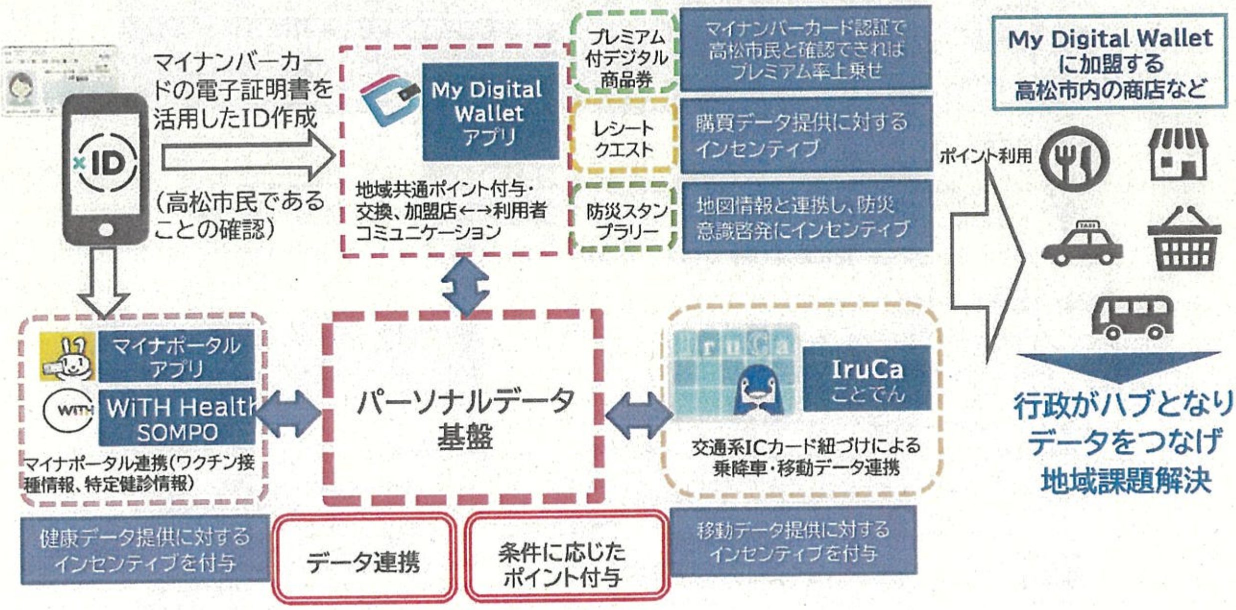
・市民ひとりひとりにとっての災害リスクと、防災施設・サービスが見える **防災アプリ**

・今回整理した ハザードマップ、オープンデータ、FIWARE、道路 のデータを利用

FACTによる事業 【わたしのデジタル財布】

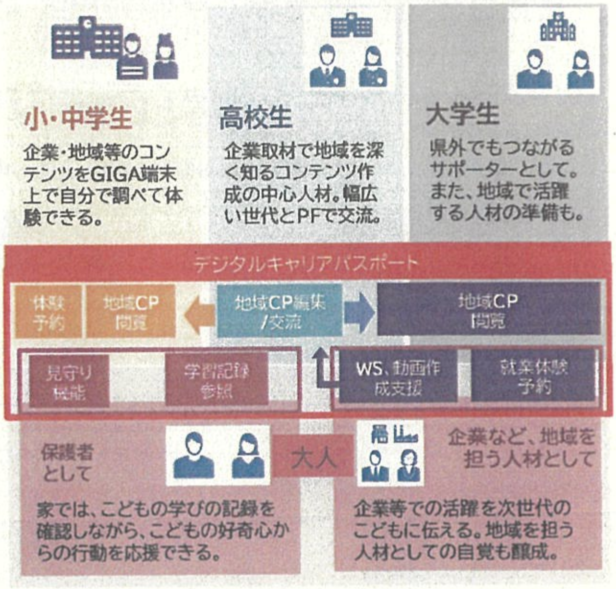
複数のスマートフォンアプリや交通系ICの連携により、健康データや移動データ、購買データなど、個人の様々なデータを連携・活用し、インセンティブにより行動変容を促す仕組みを構築した。

行政がハブとなることにより、これまでバラバラで見えていなかったデータのつながりが初めて現れ、地域の新たな価値創造が可能となった。



FACTによる事業【放課後FACT-ory】 TKMT

「こどもの学びを地域で支える」を循環させる
地域学習プラットフォーム構築・運営



こどもの放課後時間を、こどもたちの好奇心で動くことができ、地域（企業、団体など）を巻き込んで、体験、学ぶことができるフィールドを広げ、循環させていく取組を推進する。

高松市デジタル特命チーム「高松DAPPY」概要 TKMT

令和2年10月 高松市スーパーシティ準備チーム（第1期）発足

「スーパーシティ」構想への提案を目指し、前例や現行制度、組織の縦割りにとらわれず、迅速に庁内横断的な検討を行うため、高松市スーパーシティ準備チーム（16名）を設置。

チーム愛称　**高松DAPPY**　DAPPY＝脱皮

Digital Alliance which is
Potential, Powerful and Youthful

ポテンシャル、パワー、若々しさ
を兼ね備えたデジタル同盟

チームロゴマーク

任務拡大

令和3年8月 高松市デジタル特命チーム（第2期～）として発足

○意欲的な若手・中堅職員（課長補佐以下）を公募。

R3　第2期メンバー：19名
R4　第3期メンバー：16名
R5　第4期メンバー：14名
R6　第5期メンバー：12名
R7　第6期メンバー：16名

・スマートシティたかまつの推進
・庁内横断的なプロジェクトの実行
・市全体のデジタル化への戦略的提案
・市役所内外での調整・交渉

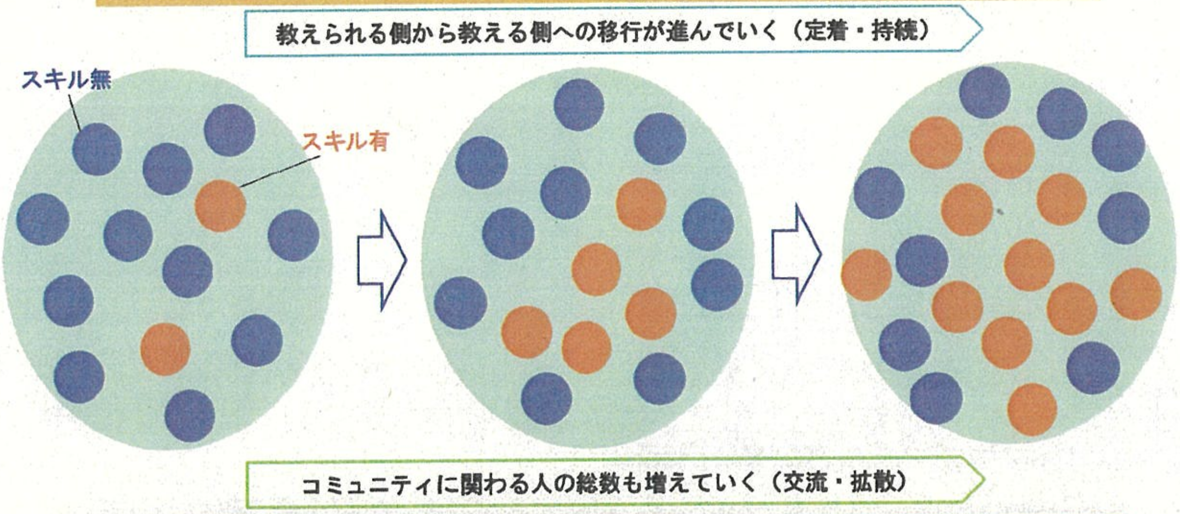
○市長が直接任命するプロジェクトチームとして、前例や現行制度、組織の縦割りにとらわれず、高松市の社会全体のデジタル化を実現する旗振り役として位置づけ。

デジタルデバイド対策事業

TKMT

地域コミュニティ協議会が、地域の実情に応じて ICTを活用した取組や、デジタルデバイド解消に向けた各種の取組を実施できる体制を構築し、円滑な活動をサポート

コミュニティを場としたデジタルデバイド対策のイメージ



デジタルスキルの「シェアリング」をコミュニティが「媒介」

デジタルデバイド対策事業

TKMT

取組例：スマホ教室（初心者編）

<屋島コミュニティセンター>	<下笠居コミュニティセンター>	<日新コミュニティセンター>

【良かった点】

スマホの使い方について教わりたいが、ショップに行くのは気恥ずかしく遠慮している方が多くいた。地域コミュニティセンターで気軽に教室に参加し、近所の方と一緒に学ぶことができるので、参加者にとって心理的なハードルが低く好評だった。

【課題】

参加者からの個別の質問も多く、2～3名の支援スタッフが必要だった。質問内容はごく初歩的なものが多かったが、講習内容とは別にらくらくスマホなど機種固有の使い方や設定方法について、スタッフも一緒に調べながら個別対応し、毎回の支援体制を準備する必要があった。

市民の通報ツール（道路の損傷など）

TKMT

【市民のメリット】
○位置付き写真を送信するだけ
○言葉による説明が不要である
○時間を気にせずに通報できる

【市役所のメリット】
○位置と状況が一目瞭然
○管理システムと自動連携
○将来的にパトロール削減も

R2.10月

My City Report

※ 課題 ※

・専用アプリのインストールに対するハードル
・運用コスト高
・アプリ開発元の運用ポリシーに関する問題

R5.4月

公式 LINE

○ダウンロードしたアプリを使い、道路の破損状況などを画像と共に情報提供。
○スマホの位置情報データにより、正確な場所が地図上に表示される。

○写真と位置情報、コメント等を市民が通報、それを種類別、期間等で一元管理。
○アカウントへの友達登録のみで通報が可能、操作はチャットボット形式。

たかまつデジタル市役所

TKMT

市民向けのオンライン申請手続を集約したポータルサイト
「たかまつデジタル市役所」
令和5年3月から運用開始

【手続き数】120件以上
※令和6年10月現在

利用するシステム	ぴったりサービス	児童手当、介護など
	汎用申請フォーム	粗大ごみ、講座申込みなど
	独自システム	図書館、施設予約など

たかまつデジタル市役所 【利用するシステム例】

	ぴったりサービス	LoGoフォーム
開発元	デジタル庁	(株)トラストバンク
特徴	全国統一の申請様式(標準様式)により、申請フォームを作成する手間をかけることなく、すぐにオンライン申請を開始することが可能。	自治体向けのオンライン申請ツール。全国で500を超える自治体が導入しており、標準様式はないが、機能性が高く、様々な用途に柔軟に対応できる申請フォームを作成することが可能。
マイナンバーカードによる本人確認	○	○(R5年度～)
オンライン決済	○(R5年度～)	○(R5年度～)
双方向コミュニケーション	・申請処理状況 ・メッセージ通知	・申請処理状況 ・メッセージ通知 ・差戻し機能 ・電子文書交付機能
費用	現在は不要	約370万円(R5年度見込)

ことばのちから

事業のはじまり

キーワードはことばのちから

松山市では、21世紀という新たな100年のスタートを迎えた2000年に、松山ならではの歴史や文化的・文学的な風土を生かした「人づくり」・「物づくり」・「コトづくり」を展開しようと、デザイナーやアーティスト、俳人、冒険家など17名の市民からなる「21世紀イベント協議会」を立ち上げました。

21世紀イベント協議会からは、新しいまちづくりに向け「ことばのちから」をキーワードとした事業の提案がなされました。

古くから文学的土壌にも恵まれていた松山にとって「ことば」は貴重な財産であり、「ことばのちから」をキーワードとしたイベント事業を展開することで、松山から新しい風を興し、全国に発信していくことが21世紀イベントのコンセプトになりました。

「ことばを大切にするまち 松山」の魅力を高めるため、さらに松山らしい文化事業を発信しよう、また人と人との心を繋ぐような温かい「ことば」を全国に発信しようと、2000年に1回目の「だから、ことば大募集」を行いました。

全国より12,001点もの作品が寄せられ、市長賞に選ばれた「恋し、結婚し、母になったこの街で、おばあちゃんになりたい！」という“ことば作品”は、「この街で」の誕生につながり、今では松山市民の愛唱歌になっています。

当初、期間限定事業として立ち上げた委員会でしたが、内外からの関心の高さや、「ことばを大切にするまち 松山」への機運も高まり、2003年以降も「ことばのちから実行委員会」と名を変更し、継続していくこととなりました。

ことばのちから

2020年
だから、ことば大募集

◆10年ぶりに3回目の「ことば」を募集

ことばのちから園
［テーマ］想 おもい

全国４７都道府県、
海外１０の国と地域から
２２，４４０点
応募数過去最多！

募集テーマ：「想（おもい）」

コロナ禍で、会いたい人に会えない、行きたい場所に行けない中、誰かを想い、何かを想い、自分自身を想う機会が増え、さまざまな「想い」のこもった「ことば」が寄せられました。

◆令和３年３月１４日（日）に表彰式を開催

【審査員長 高橋源一郎さん総評】

「どんな壁も乗り越えていける、そんなことばを選んだ。
受賞作品のようなことばが、いつでも誰からでも出てくる、
そんな時代になるといいと思う。」

高橋さんと審査員ディスリーさんの
トークイベント

高橋さんからディスリーさんに
ラップをリクエスト！
ディスリーさんは方言を使った
ラップを披露しました。

やりよんけ？
やりよるけん、
I don’t care

ことばのちから

2020年
だから、ことば大募集
受賞作品

大賞

「ふるさと」をようけ詰めて送るけん

優秀賞（順不同）

終わった恋に寄りそってくれたのは
千年前のことばだった。

1年生の娘の置手紙
「今日は朝たべない、コイをしているから。」

鈍行で行け、周りが良く見える

ばあばにだって、将来の夢あるぞ！

入賞（順不同）

君の好きな所は一人にしてくれるのに、
ひとりぼっちにはしない所

母さん、自分をたまには褒めてください。
もう十分合格点です。

ふるさとの駅に降り立てば磯の香り
住んでた時は知らなかった

高2娘の反抗期「弁当うまっ」で 一時休戦

「チンしてね」のオカンの字。あったかい。

作業着に、父さんの 生き方包む

逢いたいのにもどらんでいいと言う親心

山が泳いでいるね飛行機の窓見て
教えてくれたわが子の愛しさ

おふくろと出掛ける時は、おふくろの歩幅で歩く

母の愛は常に全力
だからぶつかった時は メチャクチャ痛い

想いはきっと、wi-fiよりも飛び交っている。

家族って毛糸みたい
こんがらがって あったかい

いつまで昨日のおまえでいるつもりだ！？

まんまるでも、さんかくでも、
しかくでもいいから、生きていて

息子よ！アンタの ファーストキスは
母ちゃんと済んどんよ

「今年も蜜柑は甘いよ」
父の電話は帰っておいでの合図

わしゃ スマホは持っちょらんが
想いはいつも携帯しちょる

じいちゃんの教えは 守る
ばあちゃんの想いは つなぐ

甘くて優しいのが松山の味やけん

息子に身長、抜かされた。
負けることが嬉しいなんてね。

ことばのちから

過去の受賞作品 ～だから、ことば大募集～

第1回（2000年）

ことばのちから（松山市長）賞

君の速さで歩（ゆ）けばいい。

恋し、結婚し、
母になったこの街で
おばあちゃんになりたい！

そんなポンコツなあなたが
だーい好き！

ことばの学校（松山市教育委員会）賞

いろんな子いっぱいおって
かまん！ かまん！

子規さん（正岡子規100年祭記念事業）賞

四季のある国　子規のいる街

おいでんか（松山市観光協会）賞

マドンナならここにおるやん
あなたの前に

ほか

第2回（2010年）

松山市長賞

亡き父の靴
履いて出かける入社式

ゲスト審査員（新井満）賞

みんなの願いをぎゅっと握って
生まれてきたんだね

ことばのちから賞

うちら電源切れても 繋がっとるよ。

入賞

退職し帰りました松山に
還暦過ぎてマドンナと

方言まるだしのその声が、
イッキに故郷を連れてくる。

「どうぞ」と8歳「ありがとう」と80歳

縁あってライバル

もしも道をそれたって
家族みんながカーナビです

ほか

◆その他、過去の受賞作品は
こちらからご覧いただけます ☞

寄せられたことば作品は
「街はことばのミュージアム」の基盤へ

▼

ことばの魅力で街を彩る

街はことばのミュージアム

ことばのちから

「だから、ことば大募集」で、
全国から寄せられた「ことば」は
「街はことばのミュージアム」
として、多くの方の目に留まる
場所へ掲出しています。

【松山空港】

【市庁舎1階】

【松山観光港】

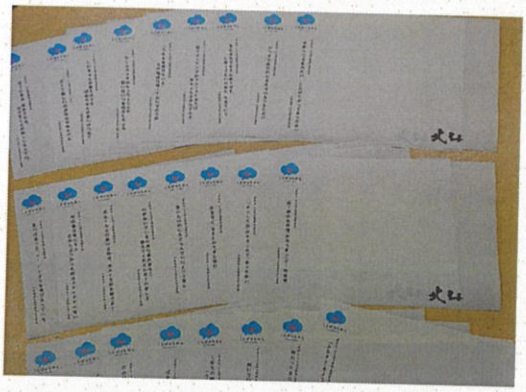
【市内電車】

【松山城リフト下ネット】

街はことばのミュージアム

ことばのちから

ことばの広がりは様々なところへ



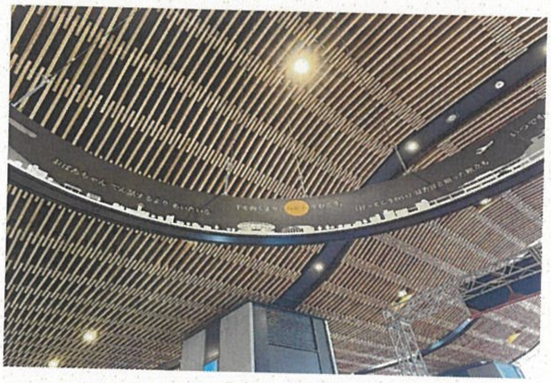
【飲食店のテーブルマット】

【自動車メーカーの試乗車】

【人材センターの封筒】

【幼稚園の出入り口】

【郵便局の配達車両】



【ＪＲ松山駅エントランス】

◆「街はことばのミュージアム」の趣旨に賛同いただける企業や団体、個人を募集しており、これまでにも様々な場所・媒体で「ことば」をご使用いただいています。

俳句甲子園

全国高等学校俳句選手権大会

俳句の都・松山の夏の風物詩

「俳句甲子園」は高校生のための俳句の全国大会です。

５人１組で俳句を作る力と鑑賞する力を競います。

俳句を通じた地域間や世代間の交流を促し、若者の文化活動を活性化しています。

毎年６月に全国各地で地方大会を行い、８月に松山で全国大会を開催しています。

◆全国大会の舞台となる大街道商店街では、多くの方に観戦いただき、会場は熱気に包まれます。

◆今年度の第２８回大会は、３０都道府県から７９校９４チームのエントリーがありました。

◆全国１２都市１８会場で開催された地方大会を勝ち抜いたチームと、投句審査で選出された計３２チームが全国大会に進出しました。

【第２８回(令和７年度)大会結果】
●優勝：横浜翠嵐高等学校(神奈川県)
●大会最優秀句（文部科学大臣賞）
「天に地に鶺鴒の尾の触れずあり」
学習院女子高等科　本田 まどか

ことばのちから

「ことば」の絵本をつくろう！

「ことばを大切にするまち松山」ならではの絵本を制作し「こども本の森 松山」に寄贈。

【こども本の森 松山】
　坂の上の雲ミュージアムを設計した安藤忠雄氏から未来を担うこどもたちに贈られた、本に親しんでもらう施設。令和７年７月オープン。

制作過程

① ワークショップの開催

　幼児から中学生までを対象にしたワークショップを開催し、絵本に登場する「キャラクター」や絵本の「背景」となる画面を制作。

② 物語・絵本原稿の制作

　ワークショップで制作した「キャラクター」や「背景」を基に、美術家の牛島光太郎氏が物語・絵本原稿を制作。

◆ 題名「もじの もしもの ことだけど」

生きる上での困難さや重圧について、そして、それらと付き合いながらどうにか生きていくしたたかさやその豊かさにふれることができる「お守り」のような絵本が完成。

俳句甲子園

全国高等学校俳句選手権大会

俳句の都・松山の夏の風物詩

「俳句甲子園」は高校生のための俳句の全国大会です。
５人１組で俳句を作る力と鑑賞する力を競います。
俳句を通じた地域間や世代間の交流を促し、若者の文化活動を活性化しています。
毎年６月に全国各地で地方大会を行い、８月に松山で全国大会を開催しています。

◆全国大会の舞台となる大街道商店街では、多くの方に観戦いただき、会場は熱気に包まれます。

◆今年度の第２８回大会は、３０都道府県から７９校９４チームのエントリーがありました。

◆全国１２都市１８会場で開催された地方大会を勝ち抜いたチームと、投句審査で選出された計３２チームが全国大会に進出しました。

【第２７回（令和６年度）大会結果】
●優勝：名古屋高等学校Ａ（愛知県）
●大会最優秀句（文部科学大臣賞）
「戦死者のハンカチ青しそれを振る」
東京家政学院高等学校　岡智咲恵

俳都松山
Haiku Capital Matsuyama

俳都松山ＰＲ

◆俳都松山宣言

松山市は、平成２６年に俳都松山宣言を発表。
正岡子規の革命精神を受け継ぎ、ここ松山から俳句の風を絶やさず起こし続けることを宣言しました。

俳都松山大使・夏井いつきさんの句会ライブ

俳句の都・松山や俳句の魅力を全国に発信する、「俳都松山大使」に俳人の夏井いつきさんを任命しました。
松山市の市花「つばき」にちなんだリモート句会ライブを毎年開催しています。

令和６年度
「いい、つばきの日」記念
リモート句会ライブ　最優秀賞
「椿から天使になる為に落ちる」

台湾・台北市との俳句交流

松山市と台湾・台北市は、平成２６年１０月に友好交流協定を締結し、観光やスポーツ、文化など幅広い分野で交流しています。
台湾大学とは、平成３１年１月に松山市から俳都松山俳句ポストを贈呈したのをきっかけに、交流を深めています。
これまで、台湾大学の学生と本市の大学生をリモートでつなぎ、オンライン句会や俳句教室を開催したほか、令和６年度には台湾大学生を松山市に招き、本市の大学生と俳句を軸とした文化交流等を行いました。

ことばのちから

俳都松山俳句ポスト
俳句ポスト３６５

◆俳都松山俳句ポスト

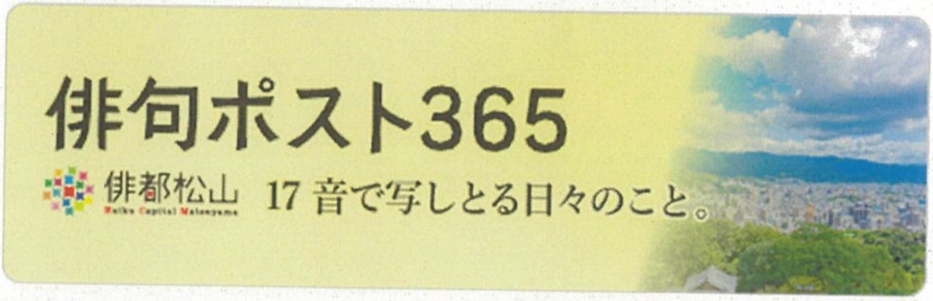
松山市内の主要観光地や道後温泉のホテル・旅館、路面電車や四国八十八カ所霊場のお寺など80ヵ所、県外14ヵ所、海外6カ所に、「俳都松山俳句ポスト」を設置しています。お気軽に投句してください。

【松山城長者ヶ平
（ちょうじゃがなる）】

【花園町】

◆俳句投稿サイト「俳句ポスト365」

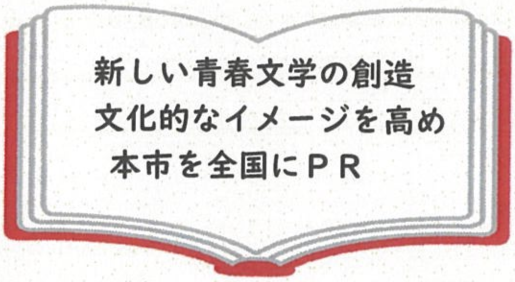
誰でも、どこからでも気軽に投句できる俳句投稿サイトです。月に1度、兼題（お題）を設定しています。俳都松山大使の俳人・夏井いつきさんらが選句、一部コメント付きで結果を発表しています。



☜インターネットで、いつでもどこからでも投句ができます。
松山市の観光情報やイベント情報も発信しています！

坊っちゃん文学賞

市制100周年を機に昭和63年に創設しました。

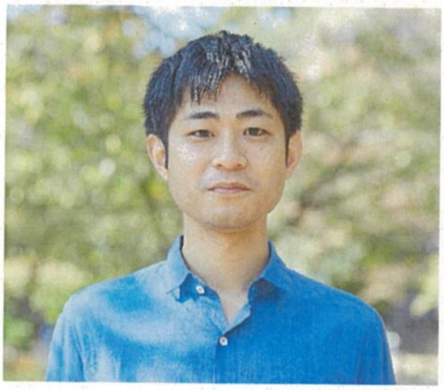


第16回からショートショートの文学賞にリニューアルし
令和6年度で**第21回**を迎えました。
第21回には、全国47都道府県に加え、海外からも作品が寄せられ、**8,341点**の応募がありました。

募集作品は、4,000字以内のショートショート

ショートショートとは・・・
アイデアとそれを生かした
印象的な結末のある物語

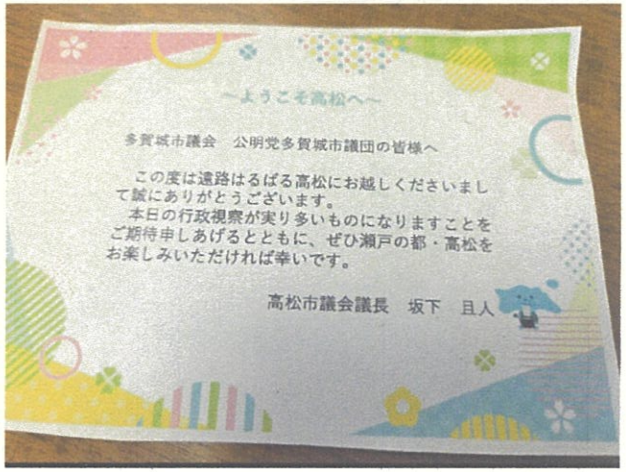
【審査員長】
ショートショート作家
田丸　雅智さん



【アンバサダー】
EXILE/GENERATIONS
白濱　亜嵐さん

お２人とも、松山市出身です

歓　迎
ようこそ高松へ！
多賀城市議会
公明党多賀城市議団
御一行様


～ようこそ高松へ～
多賀城市議会　公明党多賀城市議団の皆様へ
この度は遠路はるばる高松にお越しくださいまして誠にありがとうございます。
本日の行政視察が実り多いものになりますことをご期待申しあげるとともに、ぜひ瀬戸の都・高松をお楽しみいただければ幸いです。
高松市議会議長　坂下　且人

俳都松山
Haiku Capital Matsuyama

松山市 坂の上の雲まちづくり部
文化・ことば課

主査　小西優子
Konishi　Yuko

〒790-8571　愛媛県松山市二番町四丁目7-2
TEL：089-948-6952　FAX：089-934-1913
E-mail：yuko1108@city.matsuyama.ehime.jp

俳都松山
Haiku Capital Matsuyama

松山市 坂の上の雲まちづくり部
文化・ことば課

副主幹　河野博仁
Kono　Hirohito

〒790-8571　愛媛県松山市二番町四丁目7-2
TEL：089-948-6952　FAX：089-934-1913
E-mail：hirock@city.matsuyama.ehime.jp

松山市
防災危機管理部　市民防災安全課

主幹　竹場　登
Takeba　*Noboru*

〒790－8571 愛媛県松山市二番町四丁目７番地２
TEL (089) 948-6795　FAX (089) 934-3157
E-mail：n-takeba@city.matsuyama.ehime.jp

TKMT

高松市
総務局次長（政策担当）兼
総務局デジタル推進部長
総務局デジタル推進部
デジタル戦略課長事務取扱

新田　耕司

〒760-8571
高松市番町一丁目８番15号
TEL　087－839－2172
E-mail　koji_6432@city.takamatsu.lg.jp
URL　https://www.city.takamatsu.kagawa.jp

松山市議会事務局
議事調査課

課長　栗原英弥
Hideya　Kurihara

〒790-8571　松山市二番町四丁目７番地２
TEL.089(948)6886　FAX.089(921)1110
E-mail:k.hide@city.matsuyama.ehime.jp